

# 履修科目一覧表

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数						時間数
						1年次		2年次		3年次		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	
一般科目	◇	コンピュータ演習Ⅰ	頼實 一全	Windows、インターネット、およびオフィスソフト (Word、Excel、PowerPoint) の実用的な利用方法を習得し、ビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを修得する。	2		2					30
	◇	コンピュータ演習Ⅱ	頼實 一全	研究発表など、プレゼンテーションに必要な技術を修得する。	2			2				30
	◇	キャリアマナーⅠ	長澤さおり	『あなたと一緒に働きたい』就職試験までにそう言ってもらえるように、しっかりとビジネスマナー、サービス接遇の基本を学ぶ。気持ちの持ち方ひとつで、表情や行動が変わり、周囲に与える印象も向上する。人に喜んでもらえる対応ができるように、自分を見つめ、知識と教養を学んでいく。(サービス接遇2級取得を目指す)	2	2						30
	◇	キャリアマナーⅡ			2	2						30
	◇	RS特別講義	未定	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し、様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする。	2			2				30
基礎動物看護学	◇	動物形態機能学Ⅰ	馬場 誠	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で学び、動物の複雑な体の構造と機能について系統的に理解する。	4	2	2					60
	◇	動物形態機能学Ⅱ	馬場 誠	各種動物の体の構造と各器官の働きを、役割を中心に理解して行く。	4			2	2			60
	◇	動物繁殖学	清水 慶子	動物繁殖学は、生命誕生を知る重要な学問であり、色々な動物の繁殖に関わる形態機能学を学ぶことによって、妊娠、分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	2			2				30
	◇	動物病理学Ⅰ	奥田 宏健	看護学に係る者は必ず病気の基本を学習し、病気の成り立ちを理解しなければならない。様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2		2					30
	◇	動物病理学Ⅱ (病原体・衛生管理)	奥田 宏健	病理学Ⅰに次いで各論として各臓器の疾病を病理学的に理解する。病原体による疾病発生メカニズムと衛生管理を学ぶ。	4					2	2	60
	◇	動物薬理学	清水 慶子	動物薬理学は、動物を治療していく上で正しく理解する必要がある。薬物の体内と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	4			2	2			60
	◇	動物感染症学Ⅰ	馬場 誠	動物の病気の中で感染症の占める位置は大きい。微生物の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。感染症防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	4	2	2					60
	◇	動物感染症学Ⅱ	南 奈緒子	寄生虫学は獣医学の基礎となるもので、人畜共通感染症も多く、動物看護師にとって必須である。鑑別、ライフサイクル、治療について学習する。	2	2						30
	◇	動物看護学概論	山尾由美子	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、動物看護をする専門技術者として、動物医療を支えるために必要な知識と技術について学ぶ。	4	2	2					60
	◇	動物医療関連法規	岡本 一則	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	2			2				30
応用動物看護学	◇	公衆衛生学	岡本 一則	獣医公衆衛生は動物の健康を介して人間の健康に寄与する教科である。環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	4			2	2			60
	◇	人間動物関係学Ⅰ	湯浅 倫枝	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会的側面から理解する。	2		2					30
	◇	人間動物関係学Ⅱ	湯浅 倫枝	広く動物が人と関わる活動全般について、リサーチ、考察を通して視野をひろげる。	2						2	30
	◇	動物福祉・倫理学	湯浅 倫枝	人と動物の関係を歴史から動物愛護・動物福祉 (アニマルウェルフェア) について考え、動物介在活動および教育について学ぶ。またペットロスのサポートについて学ぶ。	2	2						30
	◇	動物行動学Ⅰ	湯浅 倫枝	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	2	2						30
	◇	動物行動学Ⅱ	湯浅 倫枝	飼い主が直面する問題行動のケーススタディを現実的に即して理解し、治療と予防方法を学習する。	2						2	30
	◇	伴侶動物学	池田 毅	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について学ぶとともに、日本愛玩動物飼養管理士 (2級) 資格を取得する。	4	2	2					60

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数						時間数
						1 年次		2 年次		3 年次		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	
応用動物看護学	◇	産業・実験動物学	奥田 宏健	産業動物・実験動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わり、動物実験との関わりについて学ぶとともに、日本愛玩動物飼養管理士（1級）資格を取得する。	4			2	2			60
	◇	野生動物学	清水 慶子	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。	2				2			30
	◇	環境・産業動物概論	本荘 司郎	野生動物や産業動物の実際について学習し、動物看護師の使命について理解するとともに職域の拡大を期す。	4					2	2	60
	◇	魚類・魚病学概論	菱田 治男	水産動物、観賞魚等それぞれの生態と実際、及び疾病について理解し、動物看護師の職域拡大を期す。	2					2		30
	◇	社会福祉概論	五嶋 幹雄	日本の福祉社会の実際を把握するため社会保障、福祉施設、思考法などを学び、動物看護師としての対応方法、ありようについて理解する。	2					2		30
	◇	ペット行政関係学(ケーススタディ)	池田 毅	ペットショップ、動物病院等の伴侶動物に関する業界の実際と、法律関係および行政関係を学習する。	2						2	30
	◇	リハビリテーション概論Ⅰ	五嶋 幹雄	人のリハビリテーションの実際を理解し、動物介在療法への活用について学習する。	2					2		30
	◇	リハビリテーション概論Ⅱ	五嶋 幹雄	人のリハビリテーションの実際と物理療法、運動療法への動物介在療法応用の可能性について学習する。	2						2	30
臨床動物看護学	◇	動物内科看護学	亀森 泰之	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	2				2			30
	◇	動物外科看護学	亀森 泰之	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	4			2	2			60
	◇	動物臨床看護学総論	山尾由美子	動物看護過程の一連のプロセスを学び、動物医療を支えるために必要な知識や技術について基本的な考え方を修得する。	2			2				30
	◇	動物臨床看護学各論Ⅰ	馬場 誠	動物の病気はその種類、症状だけを見ても実に多種多様である。「どんな病気があるのか?」「何が原因で、どこにどんな症状が現れるのか?」「治療法は?」といった疑問を解消すべく、犬猫を中心に病気を器官系統別に分類して理解を深める。	4	2	2					60
	◇	動物臨床看護学各論Ⅱ	亀森 泰之	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。	2			2				30
	◇	動物臨床看護学各論Ⅲ	山根 辰郎	各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。	2				2			30
	◇	動物臨床栄養学	南 奈緒子	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、動物のライフステージや疾患ごとに応じた、各種療法食の特色や給餌方法など、日常の飼養管理の基礎を理解し、臨床栄養学を修得する。	4	2	2					60
	◇	動物臨床検査学	清水 慶子	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。	4	2	2					60
実習科目	◆	動物形態機能学実習	馬場 誠	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	2	2	2					60
	◆	動物内科看護学実習	植田樹未仁	動物看護の衛生技術を、動物の扱い方から学習し、グルーミング道具の使い方、日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	4			8				120
	◆	動物臨床検査学実習Ⅰ	清水 慶子	臨床の現場で使用される検査機器・機械の取扱に習熟し、検査データの意義を理解する。	2	2	2					60
	◆	動物臨床検査学実習Ⅱ	馬場 誠	動物感染症の原因となる細菌、ウイルス、原虫の動態を理解し、検査データの意義を学習する。	1		2					30
	◆	動物臨床検査学実習Ⅲ	馬場 誠	感染症の原因となるウイルス、細菌、寄生虫を客観的、総合的に理解し、動物の感染症、食中毒、環境衛生及び公衆衛生関連技術を習得し、病院、企業、団体等の就職に資する。実習を通して技術を把握していく。	1					2		30
	◆	動物臨床検査学実習Ⅳ		2				2	2		60	
	◆	動物臨床病理学実習Ⅰ	奥田 宏健	疾病の病理標本や各種臨床検査資料を基に、動物の疾病について理解を深める。各種動物の実習検査をし、疾病を理解する。	2					2	2	60

授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数						時間数	
					1年次		2年次		3年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期		
実習科目	◆ 動物臨床病理学実習Ⅱ	奥田 宏健	疾病の細胞診や組織病理学的診断技術等の高度医療技術を学習する。	2					2	2	60	
	◆ 動物外科看護学実習	亀森 泰之	動物病院の現場では、獣医学的知識に基づく確実な技術を身につけた動物看護師が求められている。手術準備や手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	4			4	4			120	
	◆ 動物臨床看護学実習	山尾由美子	動物看護過程や疾患別の看護など、動物の看護を実践して学び、動物臨床看護学で学んだ知識を実践して理解を深める。	2	2	2					60	
	◆ 動物看護総合実習Ⅰ	南 奈緒子	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。	4	4	4					120	
	◆ 動物看護総合実習Ⅱ	亀森 泰之		2				4			60	
	▲ 動物看護総合実習Ⅲ	亀森 泰之	3カ年に渡り学習した動物病院や動物関連施設の実情と仕組みを理解し、それぞれの必要とされている技術・思考法を修得し、幅広い視野を養う。	(1)						(2)	(30)	
	◆ 動物飼育実習Ⅰ	湯浅 倫枝	飼い主のために適切なアドバイスのできるように、犬について、犬の扱いについて情報知識と近代的な犬の行動学、心理学に基づいたトレーニング技術を学ぶ。	2	2	2					60	
	◆ 動物飼育実習Ⅱ	南 奈緒子	学校飼育動物の給餌や運動、ケージの掃除・消毒等の世話を通して、動物に慣れ親しみながら飼育・健康管理のポイントや動物の扱い方について学ぶ。	1	1	1					30	
	◆ 動物飼育実習Ⅲ	南 奈緒子	動物飼育実習Ⅱで実施する内容に加え、飼育を通して動物種別の行動や習性について学びその動物に適した飼育管理方法を身につける。	1			1	1			30	
	◆ 動物管理学実習	亀森 泰之	動物臨床看護学で学んだ知識を実践して理解を深める。	1					2		30	
演習・研究系科目	◇ 特別講義	未定	動物に係る教科をより深く理解するため、専門教科、動物関連業界、自然環境、関連法規等を課題として取り上げ学習する。	2				2			30	
	◇ 獣医看護学演習	藤岡 透	CT、MRI等、先端獣医療機器の実際と、各種臨床検査の技術を学ぶため、獣医系大学や最新の動物医療を行う病院等で集中的に知識取得に努める。	2					2		30	
	◇ 動物内科学総合演習	亀森 泰之	動物内科学の実際と看護学の応用について、実例をもとに演習する。	4					2	2	60	
	◇ 動物臨床栄養学演習	南 奈緒子	動物のライフステージや疾患ごとに応じた、各種療法食の特色や給餌方法などについて、実例をもとに演習する。	4					2	2	60	
	◇ 卒業研究	亀森 泰之 南 奈緒子	動物関連学科の動物看護学、基礎獣医学、動物愛護関連教科をより深く理解し、動物関連業務を主体的に取り組むためにグループ研究をし、成果を発表するとともに論文にまとめる。	8			4	4			120	
	◇ 多目的演習A・B	南 奈緒子	3カ年の学習成果をまとめる能力を養う。その結果をグループ発表するとともに、論文にまとめる。	4					2	2	60	
	◇ エキゾチックアニマル演習	本莊 司郎	エキゾチックアニマルを家庭で飼育する機会が増加していく中で、その生理、生態について学習し、動物看護技術に資する。	2						2	30	
	必要修得単位数・時間数				171	35	35	37	41	34	26	3,120
						1,050		1,170		900		

◇必修講義科目    △選択講義科目    ◆必修実習科目    ▲選択実習科目

# 動物看護学科

看護医療コース(2年制)

高度看護医療・臨床検査コース(3年制)

1・2年次 講義内容

## 講義内容

授業科目	コンピュータ演習 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1 年次 (後期)	必修	講義	2 単位
1. 担当者	頼實 一全 実務経験：IT ソリューション会社勤務				
2. 授業目的	現代の情報化社会では、あらゆる分野においてコンピュータの利用は欠かせないものとなっている。本講義では、Windows、インターネット及び Office ソフト (Word、Excel、PowerPoint) の実用的な活用方法、並びにペットビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを習得することを目指す。				
3. 達成目標	ペットビジネスの現場に必要な書類作成やプレゼン資料作成の基本スキルを身につけると共に、情報モラルや情報セキュリティの基礎知識についても習得していく。				
4. 授業時間外に必要な学修	講義の予習・復習、課題テストに向けた自習など。				
5. テキスト	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 / 著者：杉本くみ子・吉田栄子 / 実教出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況 (20%)、課題テスト (50%)、授業成果物 (30%) の評価を基に評点を決定する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション、Windows 活用 (ウインドウ操作、フォルダ管理、ショートカット)				
2 回	インターネット活用 (様々な情報検索、情報モラルと情報セキュリティ)				
3 回	ワープロ活用 (ニュースレター作成)				
4 回	ワープロ活用 (案内チラシ作成)				
5 回	ワープロ活用 (長文作成)				
6 回	表計算活用 (売上管理表作成)				
7 回	表計算活用 (出荷表作成)				
8 回	表計算活用 (成績表作成)				
9 回	表計算活用 (販売実績グラフ作成)				
10 回	ワープロ・表計算活用 (総合演習①) ※ 課題テスト①				
11 回	ワープロ・表計算活用 (総合演習②) ※ 課題テスト②				
12 回	プレゼンテーション活用 (自己紹介スライド作成①)				
13 回	プレゼンテーション活用 (自己紹介スライド作成②)				
14 回	プレゼンテーション活用 (自己紹介スライド作成③)				
15 回	プレゼンテーション活用 (自己紹介スライド作成④)、講義のまとめ				
備考					

## 講義内容

授業科目	コンピュータ演習 II				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2 年次 (前期)	必修	講義	2 単位
1. 担当者	頼實 一全 実務経験：IT ソリューション会社勤務				
2. 授業目的	ホームページは情報提供だけでなく、商品販売、サービス提供、集客の手段として大きな役割を担っている。本講義では、動物病院に必要なコンテンツを考えながら、ホームページ作成ソフト (ホームページビルダー) を利用してホームページを制作する方法を習得することを目指す。				
3. 達成目標	動物病院に必要なコンテンツを自ら考えながらホームページの作成や更新の基本スキルを身につけると共に、デザイン、配色、アクセシビリティ、ユーザービリティ、SEO 対策などに配慮したホームページ作成についても習得していく。				
4. 授業時間外に必要な学修	講義の予習・復習、提出課題に向けた自習など。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況 (20%)、授業成果物 (80%) の評価を基に評点を決定する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション、ホームページ概要・作成準備				
2 回	ホームページ作成 (フレームページ)				
3 回	ホームページ作成 (ヘッダー、メニュー)				
4 回	ホームページ作成 (トップページ)				
5 回	ホームページ作成 (病院案内ページ)				
6 回	ホームページ作成 (スタッフ紹介ページ)				
7 回	ホームページ作成 (リンクページ)				
8 回	地図作成①				
9 回	地図作成②				
10 回	地図作成③				
11 回	ホームページ作成 (アクセスページ)				
12 回	ホームページ作成 (診療時間ページ)				
13 回	ホームページ作成 (イベントページ)				
14 回	ホームページ作成 (仕上げ)				
15 回	ファイル転送 (アップロード、更新)、講義のまとめ				
備考					

## 講義内容

授業科目	キャリアマナーⅠ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	長澤 さおり 実務経験：元 ANA 客室乗務員／接客コンサルタント				
2. 授業目的	‘相手に喜んでもらうことが自分の喜びとなる’ ことに、働きがい、やりがいを感じる人となることを目指す。『職業人として気持ちの良い環境創りができる力＝キャリアマナー』を学び人生の基盤を作る。				
3. 達成目標	サービス接客検定2級対策より検定2級・3級合格を目指し、接客者たる知識、技量を習得する。就職活動や働く際に必要なコミュニケーション能力・ビジネスマナーを習得し、実践力を高めます。				
4. 授業時間外に必要な学修	受ける側、提供する側と様々なサービスに触れその意義を考察する。				
5. テキスト	サービス接客検定『受験ガイド2級、3級』『実問題集2級、3級』／編集：実務技能検定協会／早稲田教育出版／ホスピタリティ・マナーテキストブック／著者：榊原陽子／一般社団法人CAネットワーク				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション				
2回	サービススタッフの資質・姿勢・お辞儀				
3回	必要とされる要件Ⅰ				
4回	必要とされる要件Ⅱ				
5回	従業要件Ⅰ				
6回	従業要件Ⅱ				
7回	専門知識・サービ知識				
8回	敬語・ふさわしい言葉遣いⅠ				
9回	敬語・ふさわしい言葉遣いⅡ				
10回	話し方Ⅰ				
11回	話し方Ⅱ				
12回	人間関係・接客知識・服装Ⅰ				
13回	人間関係・接客知識・服装Ⅱ				
14回	サービス接客検定2級模擬試験				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	キャリアマナーⅡ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	長澤 さおり 元 ANA 客室乗務員／接客コンサルタント				
2. 授業目的	‘相手に喜んでもらうことが自分の喜びとなる’ ことに、働きがい、やりがいを感じる人となることを目指す。『職業人として気持ちの良い環境創りができる力＝キャリアマナー』を学び人生の基盤を作る。				
3. 達成目標	サービス接客検定2級対策より検定2級・3級合格を目指し、接客者たる知識、技量を習得する。就職活動や働く際に必要なコミュニケーション能力・ビジネスマナーを習得し、実践力を高める。				
4. 授業時間外に必要な学修	受ける側、提供する側と様々なサービスに触れその意義を考察する。				
5. テキスト	サービス接客検定『受験ガイド2級、3級』『実問題集2級、3級』／編集：実務技能検定協会／早稲田教育出版／ホスピタリティ・マナーテキストブック／著者：榊原陽子／一般社団法人CAネットワーク				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	金品管理・金品搬送・社交業務				
2回	サービス接客2、3級実問題集対策①				
3回	サービス接客2、3級実問題集対策②				
4回	サービス接客2、3級実問題集対策③				
5回	サービス接客2、3級実問題集対策④				
6回	目標確認・キャリア・レポート				
7回	ファシリテーションとは(実践)				
8回	PDCAサイクルを回す(実践)				
9回	自己を知る・性格フィードバック				
10回	ホスピタリティ				
11回	ホスピタリティ・コミュニケーション				
12回	ビジネスマナーⅠ				
13回	ビジネスマナーⅡ				
14回	ビジネスマナーⅢ				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	RS 特別講義				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築、看護、191317、動物衛生、777	2年次（一部学科1年次）（後期）	必修	講義	2単位
1. 担当者	オムニバス形式				
2. 授業目的	学科の専門分野を超えて様々な分野のプロフェッショナルを招き、その真髄に触れることでプロとしての心構えや意識づけを行うことを目的とする。				
3. 達成目標	様々な専門分野における経験や知識の講義を受けて、プロフェッショナルに共通した考え方や感性、ものの見方を学び、それぞれの専門分野に活かす。				
4. 授業時間外に必要な学修	色々な学問分野に幅広い関心と興味を持つこと。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	各回ごとに提出するレポートと出席状況により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	プロの真髄 ① (心の分野)				
2 回	プロの真髄 ② (ビジネスの分野)				
3 回	プロの真髄 ③ - 1 (共生住宅の分野)				
4 回	プロの真髄 ③ - 2 (共生住宅の分野)				
5 回	プロの真髄 ④ - 1 (自然環境の分野)				
6 回	プロの真髄 ④ - 2 (自然環境の分野)				
7 回	プロの真髄 ⑤ - 1 (福祉の分野)				
8 回	プロの真髄 ⑤ - 2 (福祉の分野)				
9 回	プロの真髄 ⑥ - 1 (デザインの分野)				
10 回	プロの真髄 ⑥ - 2 (デザインの分野)				
11 回	プロの真髄 ⑦ (考古学の分野)				
12 回	プロの真髄 ⑧ - 1 (笑いの分野)				
13 回	プロの真髄 ⑧ - 2 (笑いの分野)				
14 回	プロの真髄 ⑨ (教育の分野)				
15 回					
備考					

## 講義内容

授業科目	動物形態機能学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次（通期）	必修	講義	4単位
1. 担当者	馬場 誠 実務経験：岡山県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。				
3. 達成目標	形態機能学は獣医学の基礎でもあり、犬猫を中心に、動物の複雑な体の形態と機能について、総合的に理解が深まることを目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近な動物たちを観察し形態的・機能的に考察してみる。				
5. テキスト	基礎動物看護学 1（動物形態機能学）／監修：今村信一郎／インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	生命のすがた①	16 回	体液調節と尿の生成①		
2 回	生命のすがた②	17 回	体液調節と尿の生成②		
3 回	血液と造血器①	18 回	体液調節と尿の生成③		
4 回	血液と造血器②	19 回	脳と神経①		
5 回	からだの支持と運動①	20 回	脳と神経②		
6 回	からだの支持と運動②	21 回	脳と神経③		
7 回	血液循環とその調節①	22 回	感覚と情報伝達①		
8 回	血液循環とその調節②	23 回	感覚と情報伝達②		
9 回	血液循環とその調節③	24 回	内分泌とホルモン①		
10 回	呼吸とその調節①	25 回	内分泌とホルモン②		
11 回	呼吸とその調節②	26 回	生体の防御機能①		
12 回	消化吸収と栄養代謝①	27 回	生体の防御機能②		
13 回	消化吸収と栄養代謝②	28 回	生体の防御機能③		
14 回	消化吸収と栄養代謝③	29 回	性と生殖①		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物形態機能学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	馬場 誠 実務経験：岡山県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	動物形態機能学Ⅰで学んだ知識を基に、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層でより深く追求していく。				
3. 達成目標	形態機能学は獣医学の基礎でもあり、この科目では犬猫を中心に、動物の複雑な体の形態と機能について、さらに理解が深まることを目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	疾病の原因と症状の学習に、動物形態機能学で学んだ知識を活用する。				
5. テキスト	基礎動物看護学Ⅰ（動物形態機能学）／監修：今村信一郎／インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物の体の組織と細胞①	16回	呼吸器系の構造と役割①		
2回	動物の体の組織と細胞②	17回	呼吸器系の構造と役割②		
3回	骨格系の構造と役割①	18回	泌尿器系の構造と役割①		
4回	骨格系の構造と役割②	19回	泌尿器系の構造と役割②		
5回	骨格系の構造と役割③	20回	神経系の構造と役割①		
6回	筋肉系の構造と役割①	21回	神経系の構造と役割②		
7回	筋肉系の構造と役割②	22回	内分泌系の構造と役割①		
8回	筋肉系の構造と役割③	23回	内分泌系の構造と役割②		
9回	消化器系の構造と役割①	24回	血液・リンパ系の構造と役割①		
10回	消化器系の構造と役割②	25回	血液・リンパ系の構造と役割②		
11回	消化器系の構造と役割③	26回	血液・リンパ系の構造と役割③		
12回	循環器系の構造と役割①	27回	感覚器の構造と役割①		
13回	循環器系の構造と役割②	28回	感覚器の構造と役割②		
14回	循環器系の構造と役割③	29回	動物形態機能学のまとめ		
15回	期末試験	30回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物繁殖学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	清水 慶子 実務経験：大学教員				
2. 授業目的	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。				
3. 達成目標	繁殖に関わる形態機能、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝について、総合的に理解が深まることを目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物の繁殖と環境問題、動物愛護管理法について考えてみる。				
5. テキスト	基礎動物看護学Ⅰ（動物繁殖学）／監修：今村信一郎／インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物の繁殖について				
2回	動物の繁殖と人との係りについて				
3回	動物の繁殖と環境要因について				
4回	雌の生殖器官について				
5回	雄の生殖器官について				
6回	雌の繁殖生理				
7回	雌の繁殖生理とホルモン				
8回	雄の繁殖生理				
9回	雄の繁殖生理とホルモン				
10回	交配・受精・着床				
11回	分娩				
12回	繁殖障害と周産期の異常について				
13回	エキゾチック動物の産科繁殖				
14回	助産のテクニック 他				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物病理学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	奥田 宏健 実務経験：県庁勤務、総合病院勤務				
2. 授業目的	獣医学に係る者は必ず病気に基本を学習し、病気の成り立ちを理解しなければならない。				
3. 達成目標	病気の成り立ちの総論を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	常に多数の症例数を経験する。				
5. テキスト	わかりやすい病理学(改訂第六版)／編集：恒吉正澄、小田義直／南江堂 イラストで見る犬の病気／編集：小野憲一郎ほか／講談社				
6. 参考書	動物病理学総論／文永堂出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	病気の変遷、循環傷害：血液循環傷害、リンパ液循環傷害				
2 回	退行性変化：萎縮、変性、代謝障害(脂質、炭水化物、塩類、色素)				
3 回	壊死および死：局所死、全身死				
4 回	進行性変化その1：肥大、化生、再生(上皮、結合組織、骨、血管、筋肉)				
5 回	進行性変化その2：肉芽組織、創傷の治療、器質化、移植				
6 回	炎症：組織変性、循環傷害と滲出、組織増殖、炎症の経過・転帰				
7 回	炎症各論その1：漿液性炎、カタル性炎、化膿性炎、出血性炎				
8 回	炎症各論その2：増殖性炎、過形成炎、定型性炎、結核病				
9 回	腫瘍学総論：定義、形態、発生、増殖と蔓延、再発と運命				
10 回	腫瘍各論：成熟型上皮性腫瘍、未成熟型上皮性腫瘍、肉腫、癌腫				
11 回	老齢性疾患				
12 回	遺伝性疾患				
13 回	エキゾチックアニマルの病気				
14 回	人と動物共通感染症				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物薬理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	清水 慶子 実務経験：大学教員				
2. 授業目的	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。				
3. 達成目標	薬物の体内動態、作用機序、副作用について学び薬物治療について、総合的に理解が深まることを目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近にある、薬物に興味を持ち、その使用目的、作用機序などについて調べてみる。				
5. テキスト	獣医薬理学／日本比較薬理学・毒性学会編／近代出版				
6. 参考書	基礎動物看護学2(動物薬理学)／インターズー				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	薬と薬理学	16 回	抗炎症薬		
2 回	薬理作用(1)	17 回	循環・呼吸器に作用する薬		
3 回	薬理作用(2)	18 回	血液に作用する薬		
4 回	薬の体内動態(1)	19 回	塩類代謝と腎機能に影響する薬		
5 回	薬の体内動態(2)	20 回	消化器機能に影響する薬		
6 回	薬の体内動態(3)	21 回	ホルモン・抗ホルモン薬		
7 回	薬の有害作用	22 回	免疫機能に影響する薬		
8 回	医薬品の基準と開発	23 回	消毒薬(1)		
9 回	末梢神経系に作用する薬(1)	24 回	消毒薬(2)		
10 回	末梢神経系に作用する薬(2)	25 回	抗菌薬、抗ウイルス薬		
11 回	中枢神経系に作用する薬(1)	26 回	抗腫瘍薬		
12 回	中枢神経系に作用する薬(2)	27 回	駆虫薬		
13 回	オータコイドとその拮抗薬(1)	28 回	殺虫薬		
14 回	オータコイドとその拮抗薬(2)	29 回	中毒と中毒治療薬		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物感染症学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	馬場 誠 実務経験：県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	微生物の伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得し、感染防御に関わる免疫学の基礎についても理解する。				
3. 達成目標	微生物の伝播様式や発病についてのメカニズム、感染症対策や感染防御に関わる免疫学の基礎について、総合的に理解が深まることを目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	疾病の原因となる微生物に留意し、動物の衛生管理、疾病予防について考える。				
5. テキスト	基礎動物看護学3（動物感染症学）／監修：小野文子／インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物を取り巻く様々な微生物	16回	免疫①		
2回	微生物学の歴史	17回	免疫②		
3回	原核細胞と真核生物	18回	免疫③		
4回	細菌の形態と構造	19回	感染症の予防①		
5回	グラム染色の原理と方法	20回	感染症の予防②		
6回	細菌の増殖と遺伝	21回	化学療法		
7回	ウイルスのアウトライン①	22回	グラム陽性菌		
8回	ウイルスのアウトライン②	23回	グラム陰性菌		
9回	真菌のアウトライン	24回	らせん菌・スピロヘータ		
10回	原虫のアウトライン	25回	マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア		
11回	感染①	26回	ウイルス各論		
12回	感染②	27回	真菌各論		
13回	滅菌と消毒①	28回	原虫各論		
14回	滅菌と消毒②	29回	総復習		
15回	期末試験	30回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物感染症学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	この科目では、病原微生物のうち寄生虫が原因となる感染症について学ぶ。寄生虫学は獣医学の基礎となるもので、また人と動物の共通感染症も含まれており、動物看護師にとって重要である。寄生虫の鑑別方法、ライフサイクル、治療について学ぶ。				
3. 達成目標	寄生虫の鑑別が出来ること。それぞれの寄生虫のライフサイクルを理解し、動物看護師として飼い主に正しい予防方法を伝えられること。				
4. 授業時間外に必要な学修	寄生虫が原因で引き起こされる感染症にまつわる新聞記事やニュースに興味を持ち、情報収集を行う。分からないことがあれば自主的に調べ、考察してみる。				
5. テキスト	基礎動物看護学3（動物感染症学）／監修：小野文子／インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験を主体に授業態度を含め総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	寄生虫学とは				
2回	内部寄生虫の種類と鑑別方法				
3回	外部寄生虫の種類と鑑別方法				
4回	蠕虫類：線虫類①				
5回	蠕虫類：線虫類②				
6回	蠕虫類：線虫類③				
7回	蠕虫類：条虫類①				
8回	蠕虫類：条虫類②				
9回	原虫類①				
10回	原虫類②				
11回	昆虫類①				
12回	昆虫類②				
13回	ダニ類①				
14回	ダニ類②				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物看護学概論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	山尾 由美子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物看護の基本的な考え方と臨床看護に必要な知識と技術について学ぶ。				
3. 達成目標	動物病院業務に必要な知識を修得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	教科書・配布資料に目を通す機会を増やし、学内外の実習時に知識を生かすよう心がける。				
5. テキスト	ビジュアルで学ぶ動物看護学 第2版 一臨床につなげる基礎知識／編集：CAP 編集部／緑書房				
6. 参考書	写真でわかる動物看護師実践マニュアル／ペットライフ社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物看護師の役割	16 回	内科疾患①		
2 回	保定	17 回	内科疾患②		
3 回	問診	18 回	伝染性疾患①		
4 回	バイタルサイン	19 回	伝染性疾患②		
5 回	栄養管理	20 回	分娩の管理と看護		
6 回	体重管理	21 回	新生子の看護		
7 回	予防接種	22 回	幼齢動物の看護		
8 回	外来診療での看護①	23 回	老齢動物の看護		
9 回	外来診療での看護②	24 回	救急動物の看護		
10 回	入院診療での看護①	25 回	重症動物の看護		
11 回	入院診療での看護②	26 回	インフォームド・コンセント		
12 回	薬剤投与方法	27 回	ターミナルケア		
13 回	注射法	28 回	エキゾチック動物の看護①		
14 回	輸液法	29 回	エキゾチック動物の看護②		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考	適宜、配布資料・視聴覚教材を利用する。				

## 講義内容

授業科目	動物医療関連法規				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	岡本 一則 実務経験：岡山県保健福祉部勤務				
2. 授業目的	獣医療に関わるものの秩序であり、社会的に要求されるものが動物医療関連法規である。獣医師法、獣医療法をはじめ、家畜衛生、公衆衛生、薬事、環境に関する行政法規についてその法体系の概念について学ぶ。				
3. 達成目標	法の基礎知識を学ぶとともに、獣医療に関連する法規の基礎的な内容を理解し、法体系の目指す方向性を大局的に把握すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	テキストおよび配布資料の予習・復習。				
5. テキスト	応用動物看護学2(動物医療関連法規)／監修：加藤雅彦／インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	総論①：法の基礎知識				
2 回	総論②：動物に関連する法規				
3 回	各論、獣医事行政法規①：獣医師法①				
4 回	各論、獣医事行政法規②：獣医師法②				
5 回	各論、獣医事行政法規③：獣医療法①				
6 回	各論、獣医事行政法規④：獣医療法②				
7 回	各論、家畜衛生行政法規：家畜伝染病予防法等				
8 回	各論、公衆衛生行政法規①：感染症法				
9 回	各論、公衆衛生行政法規②：狂犬病予防法				
10 回	各論、公衆衛生行政法規③：身体障害者補助犬法等				
11 回	各論、薬事行政法規：医薬品医療機器等法等				
12 回	各論、環境行政法規①：動物愛護管理法				
13 回	各論、環境行政法規②：廃棄物処理法				
14 回	各論、環境行政法規③：鳥獣保護法等				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	公衆衛生学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	岡本 一則 実務経験：岡山県健康福祉部勤務				
2. 授業目的	動物公衆衛生についての知識・理解を深めることによって、動物看護師として社会的に果たすべき役割を学ぶ。				
3. 達成目標	獣医公衆衛生学は動物の健康を介して人間の健康に寄与する学問である。近年の人・動物の共通感染症や生存環境を疫学的及び系統的に理解させる。				
4. 授業時間外に必要な学修	テキストおよび配付資料の予習・復習。				
5. テキスト	応用動物看護学2(公衆衛生学)／監修：加藤雅彦／インターズー				
6. 参考書	獣医公衆衛生学／文永堂出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	人と動物の共生に必要な公衆衛生①：公衆衛生とその歴史	16回	食品衛生と予防衛生①：食品衛生学①		
2回	人と動物の共生に必要な公衆衛生②：獣医療と公衆衛生	17回	食品衛生と予防衛生②：食品衛生学②		
3回	人と動物の共生に必要な公衆衛生③：動物との共生	18回	食品衛生と予防衛生③：食中毒①		
4回	疾病と疾病予防①：疫学	19回	食品衛生と予防衛生④：食中毒②		
5回	疾病と疾病予防②：感染および感染症対策	20回	食品衛生と予防衛生⑤：食品とアレルギー		
6回	動物由来感染症①：バイオセーフティとバイオセキュリティ	21回	食品衛生と予防衛生⑥：食品由来の健康危害の防止		
7回	動物由来感染症②：新興感染症と再興感染症	22回	環境衛生と動物①：環境衛生学		
8回	動物由来感染症③：ウイルス性動物由来感染症①	23回	環境衛生と動物②：水の衛生、大気の衛生		
9回	動物由来感染症④：ウイルス性動物由来感染症②	24回	環境衛生と動物③：環境問題		
10回	動物由来感染症⑤：細菌性動物由来感染症①	25回	環境衛生と動物④：廃棄物問題		
11回	動物由来感染症⑥：細菌性動物由来感染症②	26回	環境衛生と動物⑤：衛生動物		
12回	動物由来感染症⑦：リケッチャ、真菌等による動物由来感染症	27回	公衆衛生法規①		
13回	動物由来感染症⑧：寄生虫疾患	28回	公衆衛生法規②		
14回	動物由来感染症⑨：狂犬病および狂犬病対策	29回	公衆衛生法規③		
15回	前期末試験	30回	後期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	人間動物関係学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター・児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	猫の肉体的、感覚的能力の基本的な事柄や行動発達を学び、さらに犬猫の問題行動の治療と予防法を修得する。				
3. 達成目標	猫の能力や特性、行動について理解し、また犬猫の問題行動の対処法を説明できるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物について、行動学をふまえた視点で動物の行動を考察してみる。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポート、発表など総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	犬の問題行動コンサルタント				
2回	〃				
3回	〃				
4回	〃				
5回	〃				
6回	〃				
7回	猫の家畜化・猫の特徴				
8回	子猫の成長・社会化				
9回	〃				
10回	〃				
11回	〃				
12回	老犬猫の行動の変化				
13回	〃				
14回	まとめ				
15回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物福祉・倫理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	人と動物の関係について、動物愛護、動物福祉など多方面から人と動物が互いに与えあう影響について考える。				
3. 達成目標	動物愛護、動物福祉など多方面から人と動物が互いに与えあう影響について知り、自分自身の動物に対する考え方を確立することができる。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物に関するあらゆる情報に興味を持ち、情報収集を行う。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポート、発表など総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	人と動物の歴史				
2回	展示動物について				
3回	〃				
4回	〃				
5回	〃				
6回	動物が人にもたらす影響				
7回	〃				
8回	災害時における動物				
9回	ペットロスについて				
10回	〃				
11回	産業動物について				
12回	見の周りの動物と自分との関わり				
13回	〃				
14回	〃				
15回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物行動学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	犬の肉体的、感覚的能力の基本的な事柄を学び、行動発達や種の特性を理解する。				
3. 達成目標	犬の能力や特性について知ること、様々な犬の行動について理解できるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物について、行動学をふまえた視点で動物の行動を考察してみる。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポートなど総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物及び犬の家畜化				
2回	犬種の特徴				
3回	〃				
4回	〃				
5回	ボディランゲージ				
6回	〃				
7回	犬の遊び行動について				
8回	ストレス反応				
9回	学習理論				
10回	〃				
11回	〃				
12回	子犬の成長・社会化				
13回	〃				
14回	〃				
15回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	伴侶動物学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1 年次 (通期)	必修	講義	4 単位
1. 担当者	池田 毅 実務経験：愛玩動物販売会社勤務				
2. 授業目的	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、及びエキゾチック動物の生態について学び、動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令を習得し、同時に日本愛玩動物飼養管理士（2 級）の資格取得を目指す。				
3. 達成目標	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、及びエキゾチック動物の生態について理解し、動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令の習得を目標とし、同時に日本愛玩動物飼養管理士（2 級）の資格取得を目標とする。				
4. 授業時間外に必要な学修	テレビニュース見たり、新聞を読んだりして、伴侶動物にまつわる情報収集を行う。疑問があれば自分で調べながら、伴侶動物の適正飼養と動物福祉の観点から考察してみる。				
5. テキスト	応用動物看護学3（動物行動学／伴侶動物学／産業動物学／実験動物学／野生動物学）／著者：水越美奈／インターズー				
6. 参考書	愛玩動物飼養管理士（2 級）教本／公益社団法人日本愛玩動物協会 ペット判例集／著者：浅野明子／大成出版社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物愛護概論	16 回	動物飼養管理総論		
2 回	動物の愛護及び管理に関する法律の概説①	17 回	哺乳類	肉食性動物の部	
3 回	動物の愛護及び管理に関する法律の概説②	18 回		草食性動物の部	
4 回	動物の愛護及び管理に関する法律の概説③	19 回	鳥類	穀食性鳥類の部	
5 回	動物の愛護及び管理に関する法律の概説④	20 回		軟食性鳥類の部	
6 回	動物の愛護及び管理に関する法律の概説⑤	21 回		肉食性鳥類の部	
7 回	動物愛護条例概説①	22 回	両性類		
8 回	動物愛護条例概説②	23 回	爬虫類		
9 回	指導方法論	24 回	昆虫類		
10 回	動物との正しいかかわりについて	25 回	犬のしつけ		
11 回	保健衛生論	26 回	猫のしつけ		
12 回	公害関係論	27 回	振り返り①		
13 回	ペットビジネス①	28 回	振り返り②		
14 回	ペットビジネス②	29 回	伴侶動物のまとめ		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	産業・実験動物学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2 年次 (通期)	必修	講義	4 単位
1. 担当者	奥田 宏健 実務経験：県庁勤務、総合病院勤務				
2. 授業目的	社会的期待が高まっている日本愛玩動物飼養管理士（2 級）資格所有者を対象に、さらに理論的、科学的に理解を深め、産業動物および実験動物について学ぶ。同管理士 1 級資格取得を見据え有利な就職に資する。				
3. 達成目標	産業動物、実験動物飼養を理解し、愛玩動物飼養管理士 1 級を取得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	様々な動物に接触する機会を増やし、動物を体験する。				
5. テキスト	応用動物看護学3（動物行動学／伴侶動物学／産業動物学／実験動物学／野生動物学）／監修：水越美奈／インターズー				
6. 参考書	愛玩動物飼養管理士 1 級教本／公益社団法人日本愛玩動物協会				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物愛護論Ⅱ 動物愛護運動の歴史と展望①	16 回	動物の疾病とその予防	イヌ、ネコ④	
2 回	動物愛護論Ⅱ 動物愛護運動の歴史と展望②	17 回	動物の疾病とその予防	その他哺乳類①	
3 回	動物関係法令①	18 回	動物の疾病とその予防	その他哺乳類②	
4 回	動物関連法令②	19 回	産業動物学概論①		
5 回	動物の行動と社会①	20 回	産業動物学概論②		
6 回	動物の行動と社会②	21 回	産業動物学各論①		
7 回	イヌとネコの栄養学①	22 回	産業動物学各論②		
8 回	イヌとネコの栄養学②	23 回	産業動物学各論③		
9 回	動物の遺伝と繁殖生理①	24 回	産業動物学各論④		
10 回	動物の遺伝と繁殖生理②	25 回	実験動物学①		
11 回	動物の疾病とその予防 総論①	26 回	実験動物学②		
12 回	動物の疾病とその予防 総論②	27 回	実験動物学③		
13 回	動物の疾病とその予防 イヌ、ネコ①	28 回	実験動物学④		
14 回	動物の疾病とその予防 イヌ、ネコ②	29 回	期末試験①		
15 回	動物の疾病とその予防 イヌ、ネコ③	30 回	期末試験②		
備考					

## 講義内容

授業科目	野生動物学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	清水 慶子 実務経験：大学教員				
2. 授業目的	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。				
3. 達成目標	野生動物と人との関わりについて、総合的に理解が深まることを目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	目にする野生動物についてその生態について考えてみる。				
5. テキスト	応用動物看護学3(野生動物学) / 監修：木越美奈 / インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物の繁殖について				
2 回	動物の繁殖と人との係りについて				
3 回	動物の繁殖と環境要因について				
4 回	雌の生殖器官について				
5 回	雄の生殖器官について				
6 回	雌の繁殖生理				
7 回	雌の繁殖生理とホルモン				
8 回	雄の繁殖生理				
9 回	雄の繁殖生理とホルモン				
10 回	交配・受精・着床				
11 回	分娩				
12 回	繁殖障害と周産期の異常について				
13 回	エキゾチック動物の産科繁殖				
14 回	助産のテクニック 他				
15 回	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物内科看護学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	内科疾患の原因や主な症状と、診断に必要と思われる臨床検査法や一般的な治療方法を学ばせる。				
3. 達成目標	臨床症状および臨床検査データを読む知識を身につけ、診断や治療方法などについて理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	臨床動物看護学1 / 監修：佐野忠士 / インターズー				
6. 参考書	専門分野 動物臨床検査学 / インターズー、動物看護実習テキスト第2版 / インターズー、コンパニオン・アニマルの看護技術学 / インターズー				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	循環器系疾患①				
2 回	循環器系疾患②				
3 回	呼吸器系疾患①				
4 回	呼吸器系疾患②				
5 回	消化器系疾患①				
6 回	消化器系疾患②				
7 回	肝胆道系・膵外分泌系疾患①				
8 回	肝胆道系・膵外分泌系疾患②				
9 回	泌尿器系疾患①				
10 回	泌尿器系疾患②				
11 回	内分泌系疾患				
12 回	皮膚疾患				
13 回	眼疾患				
14 回	腫瘍性疾患				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物外科看護学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	外科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶとともに、手術実施時の術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、看護師として獣医師の指示の下に処置を施せる。				
3. 達成目標	外科診療時における麻酔機や点滴装置等の取扱いを熟知して、動物看護師の役割を理解し、獣医師と共に動物の動物の外科処置に携わる責任をチームの一員として理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	臨床動物看護学1／監修：佐野忠士／インターズー				
6. 参考書	コンパニオン・アニマルの看護技術学／インターズー、動物看護実習テキスト／インターズー				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物外科看護技術総論①	16回	外科に関する技術の実践と応用①		
2回	動物外科看護技術総論②	17回	外科に関する技術の実践と応用②		
3回	動物外科看護技術総論③	18回	外科に関する技術の実践と応用③		
4回	動物外科看護技術総論④	19回	外科に関する技術の実践と応用④		
5回	手術前準備①	20回	外科に関する技術の実践と応用⑤		
6回	手術前準備②	21回	外科に関する技術の実践と応用⑥		
7回	手術前準備③	22回	外科に関する技術の実践と応用⑦		
8回	周術期①	23回	外科に関する技術の実践と応用⑧		
9回	周術期②	24回	外科に関する技術の実践と応用⑨		
10回	周術期③	25回	外科に関する技術の実践と応用⑩		
11回	術後管理①	26回	外科に関する技術の実践と応用⑪		
12回	術後管理②	27回	外科に関する技術の実践と応用⑫		
13回	術後管理③	28回	外科に関する技術の実践と応用⑬		
14回	術後管理④	29回	外科に関する技術の実践と応用⑭		
15回	期末試験	30回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床看護学総論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	山尾 由美子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物看護過程の一連のプロセス学び、動物看護の基本的な考え方と臨床看護に必要な知識を学ぶ。				
3. 達成目標	動物看護において、事例ごとの個別性に重きを置いた動物病院業務に必要な知識を修得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	教科書・配布資料に目を通す機会を増やし、学内外の実習時に知識を生かすよう心がける。				
5. テキスト	ビジュアルで学ぶ動物看護学 第2版 一臨床につなげる基礎知識／編集：CAP 編集部／緑書房				
6. 参考書	写真でわかる動物看護師実践マニュアル／ペットライフ社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物看護師の役割				
2回	バイタルサイン				
3回	栄養管理				
4回	外来診療での看護				
5回	入院診療での看護				
6回	内科疾患				
7回	分娩の管理と看護				
8回	薬剤投与法				
9回	幼齢動物の看護				
10回	老齢動物の看護				
11回	救急動物の看護				
12回	重症動物の看護				
13回	障害をもつ動物の看護				
14回	終末期における動物看護援助				
15回	期末試験				
備考	適宜、配布資料・視聴覚教材を利用する。				

## 講義内容

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	馬場 誠 実務経験：岡山県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	動物の病気はその種類、症状だけを見ても多種多様である、「どんな病気があるのか?」「何が原因でどんな症状が現れるのか?」「治療法は?」といった疑問を解消するべく、犬・猫を中心に病気を器官系統別に分類して理解を深める。				
3. 達成目標	病名から、その原因、症状がイメージできること。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	イラストでみる犬の病気／編集：小野憲一郎他／講談社				
6. 参考書	イラストでみる猫の病気／編集：小野憲一郎他／講談社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	脳・神経の病気①	16 回	生殖器の病気①		
2 回	脳・神経の病気②	17 回	生殖器の病気②		
3 回	眼の病気①	18 回	骨の病気①		
4 回	眼の病気②	19 回	骨の病気②		
5 回	循環器の病気①	20 回	骨の病気③		
6 回	循環器の病気②	21 回	血液の病気①		
7 回	循環器の病気③	22 回	血液の病気②		
8 回	呼吸器の病気①	23 回	血液の病気③		
9 回	呼吸器の病気②	24 回	内分泌・代謝性の病気①		
10 回	消化器の病気①	25 回	内分泌・代謝性の病気②		
11 回	消化器の病気②	26 回	寄生虫病		
12 回	消化器の病気③	27 回	皮膚の病気①		
13 回	泌尿器の病気①	28 回	皮膚の病気②		
14 回	泌尿器の病気②	29 回	皮膚の病気③		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	様々な疾患の病態生理を理解し、そこに認められる臨床症状および臨床検査結果を活用して、適切な診断・治療に至る過程を学ぶ。				
3. 達成目標	小動物臨床現場で働くため、動物の疾患に表れる異変・症状について生理的・病理学的知識を駆使して状況を把握し、説明できる動物看護師を目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	イヌ+ネコ家庭動物の医学大百科／監修：山根義久／バイインターナショナル				
6. 参考書	専門基礎分野 動物臨床検査学／インターズー、イラストでみる犬の病気／講談社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	脳・神経の病気①				
2 回	脳・神経の病気②				
3 回	眼の病気①				
4 回	眼の病気②				
5 回	循環器の病気①				
6 回	循環器の病気②				
7 回	消化器の病気①				
8 回	消化器の病気②				
9 回	泌尿器の病気①				
10 回	泌尿器の病気②				
11 回	血液の病気				
12 回	内分泌・代謝性の病気①				
13 回	内分泌・代謝性の病気②				
14 回	皮膚の病気				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	山根 辰郎 実務経験：動物病院院長				
2. 授業目的	各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。				
3. 達成目標	動物病院で実際によく診察する病気について勉強し、病気の概要を理解し動物看護師として必要な知識を身につける。				
4. 授業時間外に必要な学修	疾病について考えるとき、その疾病の進行状況、看護についてスムーズに評価・介入できるように心がける。				
5. テキスト	イラストでみる犬の病気／編集：小野憲一郎他／講談社				
6. 参考書	イラストでみる猫の病気／編集：小野憲一郎他／講談社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	神経症状を示す病気				
2 回	感覚器の病気				
3 回	循環器の病気				
4 回	呼吸器の病気				
5 回	消化器の病気				
6 回	泌尿器の病気				
7 回	生殖器の病気				
8 回	骨の病気				
9 回	血液の病気				
10 回	内分泌の病気				
11 回	寄生虫の病気				
12 回	皮膚の病気				
13 回	感染症				
14 回	エキゾチックアニマルの病気				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床栄養学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必須	講義	4単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	6大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、犬や猫などそれぞれの動物種に必要な栄養バランスやライフステージに合った栄養管理や、疾病別に必要な栄養管理方法について学ぶ。				
3. 達成目標	基礎栄養学である6大栄養素の働きや役割を理解し、ペットフードの添加物や表示などに関係する法令についても学ぶ。そして疾病に応じて必要な栄養素を学び、動物看護師として動物の食性やライフステージに合わせた栄養管理や療法食の与え方を飼い主に指導できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎日の生活において身近な小動物の栄養管理に興味を持ち、学校で学んだ知識、技術を用いてその動物に合った栄養管理を考察してみる。				
5. テキスト	臨床動物看護学2(動物臨床栄養学)／監修：石岡克己／インターズー				
6. 参考書	ペット栄養管理学テキストブック／アドスリー				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	食べることは生きること	16 回	ライフステージ別栄養管理①		
2 回	栄養素とエネルギー	17 回	ライフステージ別栄養管理②		
3 回	エネルギー要求量	18 回	肥満と栄養管理		
4 回	栄養素(水)	19 回	尿路の病気と栄養管理(腎臓)		
5 回	栄養素(炭水化物)	20 回	尿路の病気と栄養管理(尿石症)		
6 回	栄養素(タンパク質)	21 回	皮膚の病気と栄養管理		
7 回	栄養素(脂質)	22 回	食物有害反応と食物アレルギー		
8 回	栄養素(ビタミン)	23 回	消化器の病気と栄養管理①		
9 回	栄養素(ミネラル)	24 回	消化器の病気と栄養管理②		
10 回	犬と猫の食性の違い	25 回	内分泌の病気と栄養管理		
11 回	犬と猫に与えてはいけない食材	26 回	心臓の病気と栄養管理		
12 回	ウサギの栄養管理	27 回	関節の病気と栄養管理		
13 回	鳥の栄養管理	28 回	腫瘍と栄養管理		
14 回	ペットフード関係法令	29 回	回復期の栄養管理		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床検査学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	清水 慶子 実務経験：大学教員				
2. 授業目的	臨床現場で行われている多くの臨床検査項目の原理や検査方法について学び、それぞれの検査項目が病気の診断において、どのように用いられているかを理解させる。				
3. 達成目標	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	臨床動物看護学2(動物臨床検査学)／監修：石岡克己／インターズー				
6. 参考書	コンパニオン・アニマルの看護技術学／インターズー 専門分野 動物臨床検査学／インターズー				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	序論(臨床検査とは)	16回	細胞診検査		
2回	一般身体検査(問診、視診など)	17回	病理組織検査		
3回	一般身体検査(聴診、触診など)	18回	遺伝子検査(原理と検体採取法)		
4回	採血部位および保定法	19回	〃(検査結果の見方)		
5回	血液検査(血液処理)	20回	心電図検査(原理と機器の構造)		
6回	〃(全血球計算法)	21回	〃(検査結果の見方)		
7回	〃(血液塗末標本)	22回	血圧測定		
8回	〃(生化学検査)	23回	X線検査(原理と機器の構造)		
9回	〃(その他の検査)	24回	〃(検査結果の見方)		
10回	尿検査(尿検体の取り扱い)	25回	超音波検査(原理と機器の構造)		
11回	〃(検査手順)	26回	〃(検査結果の見方)		
12回	〃(検査結果の見方)	27回	内視鏡検査(構造と取り扱い方)		
13回	糞便検査(採便と便の取り扱い)	28回	その他の画像診断(CT・MRIなど)		
14回	〃(検査結果の見方)	29回	その他の臨床検査(眼・耳など)		
15回	期末試験	30回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物医療コミュニケーション				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	山尾 由美子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物病院において必要なスタッフ・クライアントとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。				
3. 達成目標	必要な情報を飼い主に提供することができる能力、チーム医療におけるコミュニケーション技能を身に付ける。				
4. 授業時間外に必要な学修	教科書・参考書に目を通す機会を増やし、学内外の実習時に知識を生かすよう心がける。				
5. テキスト	臨床動物看護学1(動物医療コミュニケーション)／監修：佐野忠士／インターズー				
6. 参考書	写真でわかる動物看護師実践マニュアル／ペットライフ社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物看護師の役割				
2回	適正飼育について				
3回	予防法				
4回	コミュニケーション能力				
5回	獣医療面接①				
6回	獣医療面接②				
7回	クライアントエデュケーション①				
8回	クライアントエデュケーション②				
9回	院内コミュニケーション①				
10回	院内コミュニケーション②				
11回	病院マネジメント①				
12回	病院マネジメント②				
13回	グリーフケア①				
14回	グリーフケア②				
15回	期末試験				
備考	適宜、配布資料・視聴覚教材を利用する。				

## 講義内容

授業科目	動物形態機能学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	馬場 誠 実務経験：県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。				
3. 達成目標	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などで理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	疾病の原因と症状の学習に実習で学んだ知識を活用する。				
5. テキスト	動物看護実習テキスト第2版／編集：山下真理子／インターズー				
6. 参考書	基礎動物看護学1（動物形態機能学）／インターズー				
7. 成績評価	レポート提出の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	生体各部の名称①	16回	組織標本の観察 心筋		
2回	生体各部の名称②	17回	組織標本の観察 腸		
3回	骨の基本構造について	18回	組織標本の観察 肝臓		
4回	軸性骨格について①	19回	組織標本の観察 膵臓		
5回	軸性骨格について②	20回	組織標本の観察 肺		
6回	付属性骨格について①	21回	組織標本の観察 腎臓		
7回	付属性骨格について②	22回	組織標本の観察 精巣		
8回	骨格筋について①	23回	組織標本の観察 卵巣		
9回	骨格筋について②	24回	組織標本の観察 甲状腺		
10回	骨格筋について③	25回	組織標本の観察 副腎		
11回	循環器系について①	26回	組織標本の観察 皮膚・乳腺		
12回	循環器系について②	27回	組織標本の観察 眼		
13回	神経系について①	28回	組織標本の観察 脳		
14回	神経系について②	29回	まとめ①		
15回	まとめ	30回	まとめ②		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物内科看護学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(前期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	槌田 樹未仁 実務経験：動物病院勤務、ペットサロン勤務				
2. 授業目的	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得す。				
3. 達成目標	動物の扱い方から学習し、グルーミング道具の使い方、日常的な健康管理や内科診療に必要な実践力を身につける。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物飼育実習等に、学習した手技を実践する。				
5. テキスト	動物看護実習テキスト第2版／編集：山下真理子／インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	実習に臨む前の心構え				
2回	動物の基本的な取り扱い①				
3回	動物の基本的な取り扱い②				
4回	基本的グルーミング①				
5回	基本的グルーミング②				
6回	基本的グルーミング③				
7回	基本的グルーミング④				
8回	基本的グルーミング⑤				
9回	基本的グルーミング⑥				
10回	看護技術の実践と応用①				
11回	看護技術の実践と応用②				
12回	看護技術の実践と応用③				
13回	看護技術の実践と応用④				
14回	看護技術の実践と応用⑤				
15回	まとめ				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床検査学実習Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	清水 慶子 実務経験：大学教員				
2. 授業目的	臨床現場で使用されている臨床検査機器の取り扱いを習熟するとともに、検査データの意義を理解させる。				
3. 達成目標	動物病院では、獣医学的知識に基づく確実な技術を身につけた動物看護師が求められている。この診療現場における実践に役立つ動物看護師をトレーニングを重ねることで養成する。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	臨床動物看護学2(動物臨床検査学)／監修：石岡克己／インターズー				
6. 参考書	コンパニオン・アニマルの看護技術学／インターズー、専門分野 動物臨床検査学／インターズー				
7. 成績評価	実習内容の理解と実習態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	序論(臨床検査とは)	16回	尿検査とは		
2回	一般身体検査	17回	尿の生化学的検査		
3回	聴診を含む胸部の検査	18回	尿沈渣の塗抹検査		
4回	顕微鏡の取り扱い	19回	糞便検査		
5回	採血と血液検体の取り扱い	20回	〃		
6回	ヘマトクリット検査のやり方	21回	心電図検査		
7回	血液塗末標本の作り方	22回	〃		
8回	赤血球の検査	23回	X線検査		
9回	白血球の検査	24回	〃		
10回	血小板や網状赤血球の検査	25回	超音波検査		
11回	血液生化学検査	26回	〃		
12回	肝臓機能検査	27回	皮膚被毛の検査		
13回	腎臓機能検査	28回	〃		
14回	血糖値の検査	29回	学内犬の健康診断		
15回	血液検査のまとめ	30回	〃		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床検査学実習Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(後期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	馬場 誠 実務経験：岡山県庁畜産課				
2. 授業目的	動物感染症の原因となる細菌・真菌・ウイルス・原虫に関わる検査について実践力を修得する。				
3. 達成目標	動物感染症の原因となる細菌・真菌・ウイルス・原虫の動態を理解し、検査データの意義を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	疾病の原因と症状の学習に、実習で学んだ知識を活用する。				
5. テキスト	獣医微生物学実験マニュアル／監修：原澤 亮、本田英一／チクサン出版社				
6. 参考書	基礎動物看護学3(動物感染症学)／インターズー				
7. 成績評価	レポート提出の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	微生物学検査の基本操作、滅菌と消毒				
2回	グラム染色の原理と染色方法①				
3回	グラム染色の原理と染色方法②				
4回	培地の作製方法について				
5回	グラム陽性菌の分離培養方法①				
6回	グラム陽性菌の分離培養方法②				
7回	グラム陽性菌の分離培養方法③				
8回	グラム陽性菌の分離培養方法④				
9回	真菌の培養方法①				
10回	真菌の培養方法②				
11回	真菌の培養方法③				
12回	薬剤感受性試験①				
13回	薬剤感受性試験②				
14回	薬剤感受性試験③				
15回	まとめ				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物外科看護学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(通期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	外科学および外科技術の実際を学習し、手術の準備や手術の補助、麻酔機や心電計と取扱い、救急救命などを実践的に学ばせる。				
3. 達成目標	動物病院では、獣医学的知識に基づく確実な技術を身に付けた動物看護師が求められている。そこで、実践に役立つ技術とトレーニングを重ねた専門技術職を養成する。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	動物看護実習テキスト第2版／編集：山下真理子他／インターズー				
6. 参考書	コンパニオン・アニマルの看護技術学／インターズー				
7. 成績評価	実習内容の理解と実習態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	学内犬健康診断(身体検査・血液検査等)①	16 回	留置点滴、心臓検査法、麻酔器およびリネン製の取扱いのデモ		
2 回	学内犬健康診断(身体検査・血液検査等)②	17 回	留置点滴、心臓検査法、麻酔器及びリネン製の取扱いのトレーニング①		
3 回	学内犬健康診断(身体検査・血液検査等)③	18 回	留置点滴、心臓検査法、麻酔器及びリネン製の取扱いのトレーニング②		
4 回	学内犬健康診断(身体検査・血液検査等)④	19 回	留置点滴、心臓検査法、麻酔器及びリネン製の取扱いのトレーニング③		
5 回	学内犬健康診断(身体検査・血液検査等)⑤	20 回	留置点滴、心臓検査法、麻酔器及びリネン製の取扱いのトレーニング④		
6 回	X線撮影、心電図検査、外科器具取扱い、調剤のトレーニング①	21 回	留置点滴、心臓検査法、麻酔器及びリネン製の取扱いのトレーニング⑤		
7 回	X線撮影、心電図検査、外科器具取扱い、調剤のトレーニング②	22 回	留置点滴、心臓検査法、麻酔器及びリネン製の取扱いのトレーニング⑥		
8 回	X線撮影、心電図検査、外科器具取扱い、調剤のトレーニング③	23 回	犬猫の避妊・去勢等の手術実習③		
9 回	犬猫の避妊・去勢等の手術実習①	24 回	犬猫の避妊・去勢等の手術実習④		
10 回	犬猫の避妊・去勢等の手術実習②	25 回	冬休み前学内犬健康診断①		
11 回	夏休み前学内犬健康診断①	26 回	冬休み前学内犬健康診断②		
12 回	夏休み前学内犬健康診断②	27 回	トレーニングの復習		
13 回	X線撮影、心電図検査、外科器具取扱い、調剤のトレーニング④	28 回	犬猫の避妊・去勢等の手術実習⑤		
14 回	X線撮影、心電図検査、外科器具取扱い、調剤のトレーニング⑤	29 回	犬猫の避妊・去勢等の手術実習⑥		
15 回	実技試験	30 回	実技試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床看護学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	山尾 由美子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
3. 達成目標	動物看護アプローチの個別性について理解し、動物看護計画・動物看護記録を作成できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内外で動物に接する機会を可能な限り増やし、実習で学んだことを実践する。				
5. テキスト	写真でわかる動物看護師実践マニュアル／監修：山村穂積／ペットライフ社				
6. 参考書	ビジュアルで学ぶ動物看護学 第2版 一臨床につなげる基礎知識／緑書房				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物看護計画	16 回	入院動物管理		
2 回	動物看護記録	17 回	注射法①		
3 回	清掃・管理	18 回	注射法②		
4 回	保定法①	19 回	輸液法①		
5 回	保定法②	20 回	輸液法②		
6 回	デンタルケア①	21 回	幼齢動物管理		
7 回	デンタルケア②	22 回	老齢動物管理		
8 回	イヤーケア①	23 回	体位変換		
9 回	イヤーケア②	24 回	疾患別看護		
10 回	投薬法①	25 回	術後管理		
11 回	投薬法②	26 回	健康診断①		
12 回	栄養管理①	27 回	健康診断②		
13 回	栄養管理②	28 回	看護動物の問題点		
14 回	総合実習	29 回	総合実習		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考	適宜、配布資料・視聴覚教材を利用する。				

## 講義内容

授業科目	動物看護総合実習 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、動物園や牧場など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。				
3. 達成目標	動物病院での実習を通して動物病院での実情と仕組みを学び、それぞれの施設で必要な技術・思考等を修得すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	日頃の講義や実習科目で学んだ知識や技術をつかって動物看護業務が行えるよう、復習しておく。				
5. テキスト	必要に応じて資料等を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	実習先での実習評価表を参考にする。				
授業内容とスケジュール					
1回	実習希望、受け入れ実習先等調整の	16回			
2回	うえ、随時実施する。	17回			
3回	実習期間は原則として1週間とする。	18回			
4回		19回			
5回		20回			
6回		21回			
7回		22回			
8回		23回			
9回		24回			
10回		25回			
11回		26回			
12回		27回			
13回		28回			
14回		29回			
15回		30回			
備考					

## 講義内容

授業科目	動物看護総合実習 II				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(後期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、動物園や牧場など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。				
3. 達成目標	動物病院での実習を通して動物病院での実情と仕組みを学び、それぞれの施設で必要な技術・思考等を修得すること。そして、それを将来の職業に役立てられること。				
4. 授業時間外に必要な学修	日頃の講義や実習科目で学んだ知識や技術をつかって動物看護業務が行えるよう、復習しておく。				
5. テキスト	必要に応じて資料等を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	実習先での実習評価表を参考にする。				
授業内容とスケジュール					
1回	実習希望、受け入れ実習先等調整の	16回			
2回	うえ、随時実施する。	17回			
3回	実習期間は原則として1週間とする。	18回			
4回		19回			
5回		20回			
6回		21回			
7回		22回			
8回		23回			
9回		24回			
10回		25回			
11回		26回			
12回		27回			
13回		28回			
14回		29回			
15回		30回			
備考					

## 講義内容

授業科目	動物飼育実習Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	犬の飼い主に適切なアドバイスができるように、犬の扱い方について犬の行動学に基づいたトレーニング技術を学ぶ。				
3. 達成目標	犬を適切に扱うことができ、行動学に基づいたトレーニングができるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物の飼育、しつけトレーニングでの応用実践を行う。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	実技試験・レポートなど総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	犬との関わり方・飼育管理	16回	様々な状況でのトレーニング		
2回	〃	17回	〃		
3回	〃	18回	〃		
4回	〃	19回	〃		
5回	子犬のトレーニング	20回	〃		
6回	〃	21回	トレーニングテストにチャレンジ		
7回	〃	22回	〃		
8回	成犬のトレーニング	23回	〃		
9回	〃	24回	〃		
10回	〃	25回	トリックにチャレンジ		
11回	〃	26回	〃		
12回	〃	27回	〃		
13回	〃	28回	〃		
14回	〃	29回	〃		
15回	中間試験	30回	実技試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物飼育実習Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物飼育実習Ⅰで学んだ飼育・健康管理を応用し動物に応じた飼育・健康管理を学ぶ。また集団管理において重要となる感染症予防について学ぶ。				
3. 達成目標	学内飼育動物それぞれの種類による飼育管理方法を学び、実践する。				
4. 授業時間外に必要な学修	さまざまな動物の種類・品種を覚える。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料等を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	学内飼育動物の世話と管理①	16回	学内飼育動物の世話と管理⑮		
2回	学内飼育動物の世話と管理②	17回	学内飼育動物の世話と管理⑯		
3回	学内飼育動物の世話と管理③	18回	学内飼育動物の世話と管理⑰		
4回	学内飼育動物の世話と管理④	19回	学内飼育動物の世話と管理⑱		
5回	学内飼育動物の世話と管理⑤	20回	学内飼育動物の世話と管理⑲		
6回	学内飼育動物の世話と管理⑥	21回	学内飼育動物の世話と管理⑳		
7回	学内飼育動物の世話と管理⑦	22回	学内飼育動物の世話と管理㉑		
8回	学内飼育動物の世話と管理⑧	23回	学内飼育動物の世話と管理㉒		
9回	学内飼育動物の世話と管理⑨	24回	学内飼育動物の世話と管理㉓		
10回	学内飼育動物の世話と管理⑩	25回	学内飼育動物の世話と管理㉔		
11回	学内飼育動物の世話と管理⑪	26回	学内飼育動物の世話と管理㉕		
12回	学内飼育動物の世話と管理⑫	27回	学内飼育動物の世話と管理㉖		
13回	学内飼育動物の世話と管理⑬	28回	学内飼育動物の世話と管理㉗		
14回	学内飼育動物の世話と管理⑭	29回	学内飼育動物の世話と管理㉘		
15回	期末試験	30回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物飼育実習Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(通期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物飼育実習Ⅰで学んだ飼育・健康管理を応用し動物に応じた飼育・健康管理を学ぶ。また集団管理において重要となる感染症予防について学ぶ。				
3. 達成目標	学内飼育動物それぞれの種類による飼育管理方法を学び、実践する。				
4. 授業時間外に必要な学修	さまざまな動物の種類・品種を覚える。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料等を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	学内飼育動物の世話と管理①	16 回	学内飼育動物の世話と管理⑮		
2 回	学内飼育動物の世話と管理②	17 回	学内飼育動物の世話と管理⑯		
3 回	学内飼育動物の世話と管理③	18 回	学内飼育動物の世話と管理⑰		
4 回	学内飼育動物の世話と管理④	19 回	学内飼育動物の世話と管理⑱		
5 回	学内飼育動物の世話と管理⑤	20 回	学内飼育動物の世話と管理⑲		
6 回	学内飼育動物の世話と管理⑥	21 回	学内飼育動物の世話と管理⑳		
7 回	学内飼育動物の世話と管理⑦	22 回	学内飼育動物の世話と管理㉑		
8 回	学内飼育動物の世話と管理⑧	23 回	学内飼育動物の世話と管理㉒		
9 回	学内飼育動物の世話と管理⑨	24 回	学内飼育動物の世話と管理㉓		
10 回	学内飼育動物の世話と管理⑩	25 回	学内飼育動物の世話と管理㉔		
11 回	学内飼育動物の世話と管理⑪	26 回	学内飼育動物の世話と管理㉕		
12 回	学内飼育動物の世話と管理⑫	27 回	学内飼育動物の世話と管理㉖		
13 回	学内飼育動物の世話と管理⑬	28 回	学内飼育動物の世話と管理㉗		
14 回	学内飼育動物の世話と管理⑭	29 回	学内飼育動物の世話と管理㉘		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	グルーミング実習Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(後期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	梶田 樹未仁 実務経験：動物病院・ペットサロン勤務				
2. 授業目的	グルーミングの基礎技術を実技を通して理解し、動物の扱い方を学習する。				
3. 達成目標	グルーミング実習を通して、グルーミングだけでなく犬の健康チェックや保定を行うことができる。				
4. 授業時間外に必要な学修	犬の体のつくり、骨格や関節の動き方を理解しておく。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料等を配布する。				
6. 参考書	JKCグルーミングマニュアル／ジャパンケネルクラブ、プロが教えるベストトリミング第1巻／インターズー				
7. 成績評価	出席状況および実習態度により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	グルーミングとは				
2 回	グルーミング実習①				
3 回	グルーミング実習②				
4 回	グルーミング実習③				
5 回	グルーミング実習④				
6 回	グルーミング実習⑤				
7 回	グルーミング実習⑥				
8 回	グルーミング実習⑦				
9 回	グルーミング実習⑧				
10 回	グルーミング実習⑨				
11 回	グルーミング実習⑩				
12 回	グルーミング実習⑪				
13 回	グルーミング実習⑫				
14 回	グルーミング実習⑬				
15 回	グルーミング実習⑭				
備考					

## 講義内容

授業科目	特別講義				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(後期)	必修	演習	2単位
1. 担当者	<p>動物に係る教科をより深く理解するため、専門教科、動物関連業界、自然環境、関連法規等を課題として取り上げ学習する。</p> <p>動物看護師としての総合的な理解力を身につける。</p> <p>レポートの評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。</p>				
2. 授業目的					
3. 達成目標					
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価					
授業内容とスケジュール					
1回	年間に、数回実施する。				
2回					
3回					
4回					
5回					
6回					
7回					
8回					
9回					
10回					
11回					
12回					
13回					
14回					
15回					
備考					

## 講義内容

授業科目	卒業研究				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(通期)	必修	演習・研究	8単位
1. 担当者	<p>亀森 泰之、南 奈緒子 実務経験：家畜診療所勤務、動物病院勤務</p> <p>動物関連学科の動物看護学、基礎獣医学、動物愛護関連教科をより深く理解し、動物関連業務を主体的に取り組むためにグループで研究する。その成果を動物臨床医学研究所年次大会で発表する。</p> <p>グループで行う調査やディスカッションを通じて、チームワークを高められるような他者とのかわり方ができること。また、学んだ技術を状況に合わせて応用できるようになること。</p> <p>日頃から書籍や新聞を使って情報収集するとともに、文章力と読解力を鍛えておく。</p> <p>必要に応じて資料等配布する。</p> <p>学内卒業研究発表会、授業態度と出席状況により総合的に評価する。</p>				
2. 授業目的					
3. 達成目標					
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価					
授業内容とスケジュール					
1回	研究計画①	16回	抄録作成⑤		
2回	研究計画②	17回	年次大会発表資料作成①		
3回	研究データ収集①	18回	年次大会発表資料作成②		
4回	研究データ収集②	19回	年次大会発表資料作成③		
5回	研究データ収集③	20回	年次大会発表資料作成④		
6回	研究データ収集④	21回	年次大会発表資料作成⑤		
7回	研究データ収集⑤	22回	年次大会参加、発表		
8回	研究データ収集⑥	23回	パネル作成		
9回	研究データ収集⑦	24回	学内卒業研究発表会資料作成①		
10回	研究データ収集⑧	25回	学内卒業研究発表会資料作成②		
11回	研究データ収集⑨	26回	学内卒業研究発表会資料作成③		
12回	抄録作成①	27回	学内卒業研究発表会資料作成④		
13回	抄録作成②	28回	学内卒業研究発表会資料作成⑤		
14回	抄録作成③	29回	学内卒業研究発表会資料作成⑥		
15回	抄録作成④	30回	学内卒業研究発表会		
備考					



# 動物看護学科

高度看護医療・臨床検査コース(3年制)

3年次 講義内容

## 講義内容

授業科目	動物病理学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	奥田 宏健 実務経験：県庁勤務、総合病院勤務				
2. 授業目的	動物病理学の各論を理解する。				
3. 達成目標	各臓器・器官の疾病の種類と成り立ちを理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	常に多数の症例を経験するよう努める。				
5. テキスト	わかりやすい病理学(改訂第六版)／編集：恒吉正澄、小田義直／南江堂 イラストで見る犬の病気／編集：小野憲一郎ほか／講談社				
6. 参考書	イヌ・ネコ 家庭動物の医学大百科／バイ インターナショナル				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	循環器系の疾病	16 回	ウイルス病①		
2 回	呼吸器系の疾病	17 回	ウイルス病②		
3 回	消化器系の疾病①	18 回	ウイルス病③		
4 回	消化器系の疾病②	19 回	細菌病①		
5 回	内分泌系の疾病	20 回	細菌病②		
6 回	泌尿器系の疾病	21 回	寄生虫病①		
7 回	生殖器系の疾病	22 回	寄生虫病②		
8 回	造血器系の疾病	23 回	遺伝免疫病①		
9 回	神経系の疾病	24 回	遺伝免疫病②		
10 回	感覚器系の疾病	25 回	遺伝免疫病③		
11 回	運動器系の疾病	26 回	衛生管理①		
12 回	皮膚病	27 回	衛生管理②		
13 回	全身性疾病	28 回	衛生管理③		
14 回	高齢動物の疾病	29 回	衛生管理④		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	人間動物関係学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	動物介在活動を中心に、人と動物が関わる活動の現状を考察、リサーチしながら視野を広げる。				
3. 達成目標	動物介在活動を中心に人と動物が関わる活動の現状を広く知り、主体的に動物との関わりを持てるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物に関するあらゆる情報に興味を持ち、情報収集を行う。				
5. テキスト	アニマルセラピー実践・その構築に関わるコーディネーターの役割／山崎恵子／ウイネット出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポートなど総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物介在介入の歴史				
2 回	〃				
3 回	〃				
4 回	動物介在介入の種類・対象				
5 回	〃				
6 回	〃				
7 回	動物介在介入に適する動物				
8 回	〃				
9 回	〃				
10 回	動物介在介入ボランティアの資質				
11 回	〃				
12 回	〃				
13 回	人と動物が関わる活動				
14 回	〃				
15 回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物行動学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	これまで修得した犬猫の基本的な行動様式を基礎に、理論に基づいた動物への関わり方を具体的に学ぶ。				
3. 達成目標	これまで修得した犬猫の基本的な行動様式を基礎に、理論に基づいた動物への関わり方の実践および説明をすることができる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物について、行動学をふまえた視点で動物の行動を考察してみる。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポートなど総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	パピー教室開催について				
2回	〃				
3回	〃				
4回	〃				
5回	問題行動に対する様々なアプローチ法				
6回	〃				
7回	〃				
8回	動物に対する様々なトレーニング法				
9回	〃				
10回	〃				
11回	トレーニング実践				
12回	〃				
13回	〃				
14回	〃				
15回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	環境・産業動物概論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	本庄 司郎 実務経験：岡山県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	様々な環境・動物・産業動物の役割と生態を学習し、人間の使命を考える。また、産業動物の歴史や品種、飼育管理法及び畜産業など社会との関りについて学ぶ。				
3. 達成目標	産業動物の特性と伴侶動物との違いを理解し、幅広い視点を持って動物看護に臨めるようになること。				
4. 授業時間外に必要な学修	疾病動物の看護だけでなく、動物の取り扱いにあたっては飼い主の立場から対応することの重要性について考える。				
5. テキスト	その都度資料を配布する。				
6. 参考書	新版 家畜飼育の基礎／著者：阿部 亮／農山漁村文化協会				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物とその特性	16回	産業動物概論		
2回	動物の進化(動物の分類)	17回	日本における産業動物		
3回	動物の進化(各動物門)	18回	代表的な産業動物①		
4回	動物の進化(動物の起源と進化)	19回	代表的な産業動物②		
5回	個体の構造と機能	20回	代表的な産業動物③		
6回	生殖と発生	21回	代表的な産業動物④		
7回	地球環境と動物(動物の分布)	22回	産業動物と環境		
8回	地球環境と動物(日本の動物)	23回	総合演習③		
9回	地球環境と動物(先史時代の動物)	24回	産業動物と疾病①		
10回	総合演習①	25回	産業動物と疾病②		
11回	動物の命を脅かす環境の変化①	26回	産業動物と疾病③		
12回	動物の命を脅かす環境の変化②	27回	産業動物と疾病④		
13回	動物の命を脅かす環境の変化③	28回	家畜伝染病予防法		
14回	総合演習②	29回	総合演習④		
15回	期末試験	30回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	魚類・魚病学概論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	菱田 治男 実務経験：魚類養殖生産組合、塾経営、大学非常勤講師				
2. 授業目的	多種多様な魚類の基本的な特徴について学習した上で飼育下における魚類の病気とその取り組みと対応について学び、さらには魚病の防疫についても理解を深める。				
3. 達成目標	魚類の基本的な特徴について説明できる。また魚病の感染、診断法、治療法、薬剤投与方法、防疫について説明できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	魚類学と魚病学の各講義の予習と復習に自主的に取り組み、理解を深めること。				
5. テキスト	魚病学／著者：児玉 洋、川本恵子、森友忠昭、和田新平／緑書房				
6. 参考書	魚類学／恒星社厚生閣、魚学入門／恒星社厚生閣、改訂・魚病学概論／恒星社厚生閣、新魚病図鑑／緑書房				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	魚類の名前と分類				
2 回	体形と体の区分、各部の名称				
3 回	鱗の種類と鱗式				
4 回	魚体の大きさの測定法と表示法				
5 回	体表の構造 ①表皮と真皮				
6 回	体表の構造 ②鱗 ③体色と色素胞				
7 回	筋肉 ①体側筋と血合筋 ②その他の筋肉				
8 回	骨格 (外部骨格・内部骨格)				
9 回	鰓の構造と機能、内臓諸器官				
10 回	飼育魚と魚病、魚病の感染				
11 回	魚病の診断法				
12 回	魚病の治療法				
13 回	薬剤投与方法				
14 回	魚類の防疫				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	社会福祉概論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	五嶋 幹雄 実務経験：高齢者福祉施設、在宅福祉関係事業所勤務				
2. 授業目的	日本の直面している超高齢社会、自閉症や知的障害等の諸課題について社会保障制度と様々な問題事項を学習する。				
3. 達成目標	動物の飼い主は年齢、性別、障害の有無など様々である。動物看護師として、個々の飼い主に寄り添ったサポートができるよう、コミュニケーション能力アップを図り、障害者福祉への理解を目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎日の生活において使っているコミュニケーションに興味を持ち、学校で学んだ知識、技術を用いてコミュニケーションをとってみよう。				
5. テキスト	最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第3版／編集：中村裕子、野村豊子／中央法規出版				
6. 参考書	六訂版 社会福祉概論 ―その基礎学習のために―／中央法規出版、最新介護福祉全書 別巻2 リハビリテーション論 3版／メヂカルフレンド社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	現代社会と障害者福祉				
2 回	障害者福祉の歴史①				
3 回	障害者福祉の歴史②				
4 回	障害者福祉の理念				
5 回	障害者福祉の法律①				
6 回	障害者福祉の法律②				
7 回	障害者福祉のサービス				
8 回	障害者福祉に従事する人々				
9 回	障害者福祉の民間活動				
10 回	障害者福祉の関連領域				
11 回	ハンディを持つ人と家庭・地域生活①				
12 回	ハンディを持つ人と家庭・地域生活②				
13 回	障害者福祉におけるアクティビティ				
14 回	これからの障害者福祉				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	ペット行政関係学(ケーススタディ)				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	池田 毅 実務経験：愛玩動物販売会社勤務				
2. 授業目的	ペットショップ等愛玩動物飼養・展示施設における動物関係の基準、法律等を現場の実際に即して学習する。適正な動物取扱に資する。				
3. 達成目標	愛玩動物や展示動物に関わる法律や飼育基準について、ケーススタディを行うことで、身近な問題であることを認識し、飼い主に愛玩動物の適切な飼養方法が指導できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	テレビニュース見たり、新聞を読んだりして、伴侶動物にまつわる情報収集を行う。疑問があれば自分で調べながら、伴侶動物の適正飼養と動物福祉の観点から考察してみる。				
5. テキスト	ペット判例集／著者：浅野明子／大成出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	総論				
2 回	動物の愛護・管理に関する法律①				
3 回	動物の愛護・管理に関する法律②				
4 回	動物の愛護・管理に関する法律③				
5 回	家庭動物、展示動物の飼養基準①				
6 回	家庭動物、展示動物の飼養基準②				
7 回	狂犬病予防法等関係法律 ①				
8 回	狂犬病予防法等関係法律 ②				
9 回	各自治体条例、規則等				
10 回	店頭、飼養現場のケーススタディ①				
11 回	店頭、飼養現場のケーススタディ②				
12 回	店頭、飼養現場のケーススタディ③				
13 回	家庭動物のケーススタディ①				
14 回	家庭動物のケーススタディ②				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	リハビリテーション概論 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	五嶋 幹雄 実務経験：高齢者福祉施設、在宅福祉関係事業所勤務				
2. 授業目的	日本における社会福祉施設や病院のリハビリテーションの意義と実際を学習する。				
3. 達成目標	リハビリテーションの意義や実際を学ぶことを通して、動物看護師として必要な「相手に寄り添う」姿勢を身につける。				
4. 授業時間外に必要な学修	リハビリテーションの種類とそれが行われる場について理解を深めよう。				
5. テキスト	六訂版 社会福祉概論 ーその基礎学習のためにー／編著：西村 昇ほか／中央法規出版				
6. 参考書	新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第3版／中央法規出版、最新介護福祉全書 別巻2 リハビリテーション論 3版／メデカルフレンド社				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	総論①				
2 回	総論②				
3 回	医療、福祉関係法律①				
4 回	医療、福祉関係法律②				
5 回	国際生活機能分類 (ICF)				
6 回	障害、疾病と支援体制				
7 回	ノーマライゼーションの実現				
8 回	無用と有用、不幸と幸福の橋				
9 回	自立生活、QOLの向上				
10 回	リハビリテーションの理解①				
11 回	リハビリテーションの理解②				
12 回	リハビリテーションの理解③				
13 回	リハビリテーションの理解④				
14 回	リハビリテーションの理解⑤				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	リハビリテーション概論Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	五嶋 幹雄 実務経験：高齢者福祉施設、在宅福祉関係事業所勤務				
2. 授業目的	病院や社会福祉施設及び医療施設の障害者や高齢者に対するリハビリテーションの意義や実際について学習し、高齢者体験などの体験を通して理解を深める。				
3. 達成目標	リハビリテーションの意義や実際を学ぶことを通して、動物看護師として必要な「相手に寄り添って考える」ことを学び、飼い主とのコミュニケーションや動物介在活動等に活かす。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎日の暮らしの中でバリアフリー、ユニバーサルデザインを意識して考えてみよう。				
5. テキスト	最新介護福祉全書 別巻2 リハビリテーション論 3版/編集：澤村誠志/メヂカルフレンド社				
6. 参考書	六訂版 社会福祉概論 その基礎学習のためにー/中央法規出版、新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第3版/中央法規出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	リハビリテーションの定義				
2 回	社会福祉施設、病院におけるリハビリテーションの実際①				
3 回	社会福祉施設、病院におけるリハビリテーションの実際②				
4 回	身体障害者に対するリハビリテーション				
5 回	高齢者に対するリハビリテーション				
6 回	交通事故等の障害に対するリハビリテーション				
7 回	脳卒中、片麻痺に対するリハビリテーション				
8 回	新生児等運動能力遅延者に対するリハビリテーション				
9 回	物理療法としてのリハビリテーション				
10 回	リハビリテーションに対する支援体制①				
11 回	リハビリテーションに対する支援体制②				
12 回	リハビリテーションに対する支援体制③				
13 回	リハビリテーションに対する支援体制④				
14 回	リハビリテーションに対する支援体制⑤				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物管理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	本莊 司郎 実務経験：岡山県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	家畜を中心とした産業動物、家庭動物の位置づけと管理の有り様を実学に即して学習し、基本的な応用技術を習得する。				
3. 達成目標	家畜の生理や習性に見合った飼育管理を学び、畜産業における家畜の健康維持の大切さを理解すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	産業動物の管理手法を参考にして、イヌ、ネコ等の伴侶動物の健康管理に活用できるか考え試行してみる。				
5. テキスト	新版 家畜飼育の基礎/著者：阿部 亮/農山漁村文化協会				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	家畜についての概論				
2 回	家畜管理技術				
3 回	家畜の生理・生態				
4 回	家畜の生産と飼育環境				
5 回	家畜環境の制御技術				
6 回	動物福祉と家畜飼育				
7 回	家畜の繁殖と育種				
8 回	家畜管理施設				
9 回	飼料の生産と利用①				
10 回	飼料の生産と利用②				
11 回	乳牛の飼育管理				
12 回	肉牛の飼育管理				
13 回	豚の飼育管理				
14 回	採卵鶏・ブロイラーの飼育管理				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床検査学実習Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(前期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	馬場 誠 実務経験：岡山県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	動物感染症の原因を培養技術等を駆使して検査し、その性状を含めて理解することにより、感染症や衛生対策を自らが考えられるように学んでいく。				
3. 達成目標	動物感染症の原因となる細菌、ウイルス、原虫などの動態を客観的、総合的に理解し、感染症や公衆衛生関連の職業に従事できる動物看護師を養成する。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	臨床動物看護学2(動物臨床検査学)／監修：石岡克己／インターズー				
6. 参考書	コンパニオン・アニマルの看護技術学／インターズー、専門分野 動物臨床検査学／インターズー、犬と猫の臨床検査マスターブック／インターズー				
7. 成績評価	実習内容の理解と実習態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	微生物検査の実際				
2回	グラム染色による細菌検査①				
3回	グラム染色による細菌検査②				
4回	グラム染色による細菌検査③				
5回	グラム染色による細菌検査④				
6回	グラム染色による細菌検査⑤				
7回	グラム染色による細菌検査⑥				
8回	真菌の培養検査①				
9回	真菌の培養検査②				
10回	真菌の培養検査③				
11回	真菌の培養検査④				
12回	薬剤感受性試験①				
13回	薬剤感受性試験②				
14回	薬剤感受性試験③				
15回	微生物検査のまとめ				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床検査学実習Ⅳ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(通期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	馬場 誠 実務経験：岡山県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	動物の疾病を基礎獣医学をベースに、微生物学・免疫学・生化学的に診断する技術を実際に則して総合的に理解して学ぶ。				
3. 達成目標	動物飼育環境における感染症や公衆衛生関連の情報を理解・習得し、動物病院や動物関連企業に就職するための技術と知識を取得させる。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	臨床動物看護学2(動物臨床検査学)／監修：石岡克己／インターズー				
6. 参考書	コンパニオン・アニマルの看護技術学／インターズー、専門分野 動物臨床検査学／インターズー、犬と猫の臨床検査マスターブック／インターズー				
7. 成績評価	実習内容の理解と実習態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	疾病診断の方法	16回	免疫学的検査		
2回	一般健康診断	17回	HA・HI検査		
3回	臨床検査による診断	18回	〃		
4回	〃(血液検査)	19回	エライザ検査		
5回	〃(尿検査)	20回	〃(小動物)		
6回	〃(糞便検査)	21回	〃(小動物)		
7回	精密検査による診断	22回	〃(大動物)		
8回	〃(細菌検査)	23回	〃(大動物)		
9回	〃(細菌検査)	24回	〃(エキゾチック動物)		
10回	〃(ウイルス検査)	25回	生化学検査(肝・腎機能検査)		
11回	〃(ウイルス検査)	26回	生化学検査(肝・腎機能検査)		
12回	〃(ウイルス検査)	27回	生理学的検査による診断		
13回	〃(ウイルス検査)	28回	〃(CT検査)		
14回	診断キットによる検査	29回	〃(MRI検査)		
15回	前期総括	30回	後期総括		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床病理学実習Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(通期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	奥田 宏健 実務経験：県庁勤務、総合病院勤務				
2. 授業目的	動物の解剖・組織学、血液学、微生物学を基礎に、身体各臓器の疾病による病的変化を学習する。野外の様々な動物の血液、糞便を検査し疾病を理解する。				
3. 達成目標	各臓器の組織構造を実物標本で顕微鏡検査する。また野外動物の血液、糞便検査により、疾病の成り立ちを理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	実際の臓器組織を体験し疾病を理解する。				
5. テキスト	わかりやすい病理学／著者：岩田峰子／南江堂、動物看護実習テキスト／編集：山下真理子／インターズー				
6. 参考書	カラーアトラス機能組織学／南江堂、小動物疾患の臨床検査／文永堂				
7. 成績評価	出席状況、レポート等の結果で評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	疾病学・病理学総論①	16 回	内分泌系臓器の病変①		
2 回	疾病学・病理学総論②	17 回	内分泌系臓器の病変②		
3 回	疾病学・病理学総論③	18 回	各疾病と臨床検査①		
4 回	脳管系、リンパ系臓器の病変①	19 回	各疾病と臨床検査②		
5 回	脳管系、リンパ系臓器の病変②	20 回	各疾病と臨床検査③		
6 回	免疫系臓器の病変①	21 回	疾病検査の実技①		
7 回	免疫系臓器の病変②	22 回	疾病検査の実技②		
8 回	消化器系臓器の病変①	23 回	剖検		
9 回	消化器系臓器の病変②	24 回	細菌検査		
10 回	呼吸器系臓器の病変①	25 回	血液検査		
11 回	呼吸器系臓器の病変②	26 回	寄生虫検査		
12 回	泌尿、生殖器系の臓器の病変①	27 回	血清検査		
13 回	泌尿、生殖器系の臓器の病変②	28 回	カルテの記録と読み方①		
14 回	神経系臓器の病変①	29 回	カルテの記録と読み方②		
15 回	神経系臓器の病変②	30 回	まとめ		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床病理学実習Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(通期)	必須	実習	2単位
1. 担当者	奥田 宏健 実務経験：県庁勤務、総合病院勤務				
2. 授業目的	臨床検査における疾病細胞診や組織病理学的診断技術等の高度医療技術を学習する。				
3. 達成目標	実際疾病の組織標本、診断標本、細胞診標本を作製し、実際の検査技術を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	機会ある毎に、臨床検査の実際を体験し、検査技術を会得する。				
5. テキスト	わかりやすい病理学／著者：岩田峰子／南江堂、動物看護実習テキスト／編集：山下真理子／インターズー				
6. 参考書	カラーアトラス機能組織学／南江堂、小動物疾患の臨床検査／文永堂				
7. 成績評価	出席状況、レポート等の結果で評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション	16 回	動物病院腫瘍組織標本検査①		
2 回	細胞診症例検討①	17 回	動物病院腫瘍組織標本検査②		
3 回	細胞診症例検討②	18 回	動物病院腫瘍組織標本検査③		
4 回	細胞診症例検討③	19 回	動物病院腫瘍組織標本検査④		
5 回	細胞診症例検討④	20 回	豚臓器細胞診標本作製①		
6 回	鶏解剖検査	21 回	豚臓器細胞診標本作製②		
7 回	鶏組織標本作製①	22 回	豚臓器細胞診標本作製③		
8 回	鶏組織標本作製②	23 回	魚類解剖検査①		
9 回	鶏組織標本作製③	24 回	魚類解剖検査②		
10 回	作成標本検査①	25 回	魚類解剖検査③		
11 回	作成標本検査②	26 回	病院の細胞診検査①		
12 回	作成標本検査③	27 回	病院の細胞診検査②		
13 回	臨床検査データの応用①	28 回	まとめ①		
14 回	臨床検査データの応用②	29 回	まとめ②		
15 回	臨床検査データの応用③	30 回	まとめ③		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物看護総合実習Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(後期)	選択	実習	1単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、動物園や牧場など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。				
3. 達成目標	動物病院での実習を通して動物病院での実情と仕組みを学び、それぞれの施設で必要な技術・思考等を修得すること。そして、それを将来の職業に役立てられること。				
4. 授業時間外に必要な学修	日頃の講義や実習科目で学んだ知識や技術をつかって動物看護業務が行えるよう、復習しておく。				
5. テキスト	必要に応じて資料等を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	実習先での実習評価表を参考にする。				
授業内容とスケジュール					
1回	実習希望、受け入れ実習先等調整の	16回			
2回	うえ、随時実施する。	17回			
3回	実習期間は原則として1週間とする。	18回			
4回		19回			
5回		20回			
6回		21回			
7回		22回			
8回		23回			
9回		24回			
10回		25回			
11回		26回			
12回		27回			
13回		28回			
14回		29回			
15回		30回			
備考					

## 講義内容

授業科目	動物管理学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(前期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	愛玩動物以外の動物飼育および家畜人工授精・受精卵移植技術などの高度獣医療技術を体験することで、動物の持っている固有の特性を動物管理面から理解させる。				
3. 達成目標	動物臨床看護学で学んだ知識を活かし、愛玩動物以外の産業動物分野の飼育管理を体験して、動物管理の幅広い技術と知識を深める。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト					
6. 参考書	新版 家畜飼育の基礎／農山漁村文化協会				
7. 成績評価	実習内容の理解と実習態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	2週間以内の現地実習(別途計画)				
2回					
3回					
4回					
5回					
6回					
7回					
8回					
9回					
10回					
11回					
12回					
13回					
14回					
15回					
備考					

## 講義内容

授業科目	グルーミング実習Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(前期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	樋田 樹未仁 実務経験：動物病院・ペットサロン勤務				
2. 授業目的	グルーミングの基礎技術から応用技術の実際を理解し、グルーミング技術を深める。				
3. 達成目標	グルーミング実習Ⅰを元に、皮膚の状態や高齢犬など、その犬に適したグルーミングを行うことができる。				
4. 授業時間外に必要な学修	普段から犬の体のしくみを理解し、健康な犬の安静時の状態を把握しておく。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料等を配布する。				
6. 参考書	JKC グルーミングマニュアル／ジャパンケネルクラブ、プロが教えるベストトリミング第1巻／インターズー				
7. 成績評価	出席状況および実習態度により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	グルーミング実習①				
2 回	グルーミング実習②				
3 回	グルーミング実習③				
4 回	グルーミング実習④				
5 回	グルーミング実習⑤				
6 回	グルーミング実習⑥				
7 回	グルーミング実習⑦				
8 回	グルーミング実習⑧				
9 回	グルーミング実習⑨				
10 回	グルーミング実習⑩				
11 回	グルーミング実習⑪				
12 回	グルーミング実習⑫				
13 回	グルーミング実習⑬				
14 回	グルーミング実習⑭				
15 回	グルーミング実習⑮				
備考					

## 講義内容

授業科目	獣医看護学演習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(前期)	必修	演習	2単位
1. 担当者	藤岡 透 実務経験：動物病院院長				
2. 授業目的	CT、MRI等、先端獣医療機器の実際と、各種臨床検査の技術を学ぶため、獣医系大学や最新の動物医療を行う病院等で集中的に知識習得を行う。				
3. 達成目標	先端獣医療機器の知識と各種臨床検査の技術を学び、獣医療が目指す、最新の動物医療について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	見聞する先端医療機器について関心をもつ。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	研修報告書の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	獣医系大学や最新の動物医療を行う病院等で、集中的に知識習得を行う。				
2 回					
3 回					
4 回					
5 回					
6 回					
7 回					
8 回					
9 回					
10 回					
11 回					
12 回					
13 回					
14 回					
15 回					
備考					

## 講義内容

授業科目	動物内科学総合演習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(通期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	伴侶動物や産業動物などの診療を行っていく上で、副医療の高度化、多様化に伴う診療・診断機器の操作方法や臨床検査項目などを理解し、動物看護師として実践的に学んでいく。				
3. 達成目標	多くの症例の画像や臨床検査結果等を示し、それに対する診断方法や臨床検査データの判読方法を学ばせることにより、動物看護師として必要な知識を身に付けさせる。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	専門領域の全科目 臨床動物看護学1／監修：佐野忠士／インターズー				
6. 参考書	専門分野 動物臨床検査学／インターズー 動物看護実習テキスト第2版／インターズー コンパニオン・アニマルの看護技術学／インターズー				
7. 成績評価	実習内容の理解と実習態度等を考慮して総合的に評価する				
授業内容とスケジュール					
1回	内科学総合演習	16回	内科学総合演習		
2回	〃	17回	〃		
3回	〃	18回	〃		
4回	〃	19回	〃		
5回	〃	20回	〃		
6回	〃	21回	〃		
7回	〃	22回	〃		
8回	〃	23回	〃		
9回	〃	24回	〃		
10回	〃	25回	〃		
11回	〃	26回	〃		
12回	〃	27回	〃		
13回	〃	28回	〃		
14回	〃	29回	〃		
15回	実技試験	30回	実技試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物臨床栄養学演習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(通期)	必須	演習	4単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を基に動物の状況に合った適切な給餌計画を立てられるよう、実例を用いて演習する。また、ペット栄養管理士の資格取得を目指す。				
3. 達成目標	飼い主の栄養管理に関する疑問や質問に対して、その動物の状況と飼い主の状況を把握したうえで、適切な栄養管理方法を提案できるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎日の生活において身近な小動物の栄養管理に興味を持ち、学校で学んだ知識、技術を用いてその動物に合った栄養管理を考察してみる。				
5. テキスト	ペット栄養管理学テキストブック／一般社団法人日本ペット栄養学会／アドスリー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	栄養素とエネルギー	16回	手術後の栄養管理		
2回	ライフステージに合った栄養管理	17回	食餌給与計画・実践⑤		
3回	反復法と食餌給与計画方法	18回	ペット栄養管理士試験対策①		
4回	食餌給与計画・実践①	19回	ペット栄養管理士試験対策②		
5回	ウサギの栄養管理	20回	ペット栄養管理士試験対策③		
6回	ペットフードの成分と表示について	21回	食餌給与計画・実践⑥		
7回	ペットフード関連法規	22回	ペット栄養管理士試験対策④		
8回	食餌給与計画・実践②	23回	ペット栄養管理士試験対策⑤		
9回	肥満と食餌療法	24回	ペット栄養管理士試験対策⑥		
10回	慢性腎臓病の食餌療法	25回	ペット栄養管理士試験対策⑦		
11回	尿石症の食餌療法	26回	食餌給与計画・実践⑦		
12回	食餌給与計画・実践③	27回	療法食の特徴と注意点①		
13回	アレルギー性疾患の食餌療法	28回	療法食の特徴と注意点②		
14回	食餌給与計画・実践④	29回	療法食の特徴と注意点③		
15回	期末試験	30回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	多目的演習A・B				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(通期)	必修	演習・研究	4単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物看護師として動物病院で必要になる業務について主体的に取り組むため、グループで調査・実践し、論文にまとめる。				
3. 達成目標	グループで行う調査やディスカッションを通じて、チームワークを高められるような他者とのかわり方ができること。また、学んだ技術を状況に合わせて応用できるようになること。				
4. 授業時間外に必要な学修	日頃から書籍や新聞を使って情報収集するとともに、文章力と読解力を鍛えておく。				
5. テキスト	必要に応じて資料等配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	学内卒業研究発表会、授業態度と出席状況により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	研究計画①	16回	論文作成①		
2回	研究計画②	17回	論文作成②		
3回	研究計画③	18回	論文作成③		
4回	研究データ収集①	19回	論文作成④		
5回	研究データ収集②	20回	論文作成⑤		
6回	研究データ収集③	21回	論文作成⑥		
7回	研究データ収集④	22回	論文作成⑦		
8回	研究データ収集⑤	23回	論文作成⑧		
9回	研究データ収集⑥	24回	論文作成⑨		
10回	研究データ収集⑦	25回	論文作成⑩		
11回	研究データ収集⑧	26回	発表資料作成①		
12回	研究データ収集⑨	27回	発表資料作成②		
13回	研究データ収集⑩	28回	発表資料作成③		
14回	研究データ収集⑪	29回	発表資料作成④		
15回	中間発表	30回	学内卒業研究発表会		
備考					

## 講義内容

授業科目	エキゾチックアニマル演習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次(後期)	必修	演習	2単位
1. 担当者	本莊 司郎 実務経験：岡山県庁畜産課勤務				
2. 授業目的	ペットショップで人気の高まっているイヌ・ネコ以外の愛玩動物全般について、疾病を中心とした、その飼育環境から飼育管理までの知識を学ぶ。				
3. 達成目標	エキゾチックアニマルの主要疾病、飼育管理のポイントを理解し、適切な看護・飼い主の指導に役立つよう身につけること。				
4. 授業時間外に必要な学修	日頃から、多種多様な動物の生物学的特徴や適正な飼育方法について興味を持ち、イヌ・ネコとの違いを比較しながら考えてみる。				
5. テキスト	エキゾチック動物の看護／著者：斉藤久美子／ファームプレス				
6. 参考書	動物看護実習テキスト第2版／インターズー				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	エキゾチックアニマル総論				
2回	ウサギの基礎知識と飼育管理法				
3回	チンチラの基礎知識と飼育管理法				
4回	モルモットの基礎知識と飼育管理法				
5回	ハムスターの基礎知識と飼育管理法				
6回	スナネズミの基礎知識と飼育管理法				
7回	マウスの基礎知識と飼育管理法				
8回	リスの基礎知識と飼育管理法				
9回	プレーリードッグの基礎知識と飼育管理法				
10回	フェレットの基礎知識と飼育管理法				
11回	各動物の主要疾病と看護①				
12回	各動物の主要疾病と看護②				
13回	各動物の主要疾病と看護③				
14回	鳥類総論				
15回	期末試験				
備考					